



学園報 97

(学) 日本福祉大学



Since 1953

日本福祉大学大学院
日本福祉大学
日本福祉大学中央福祉専門学校
日本福祉大学附属高等学校

Contents

- P. 2 【特集】新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応
- P. 9 2019年度 学校法人日本福祉大学事業報告（概要）
- P. 10 2020年度 学校法人日本福祉大学事業計画（概要）
- P. 11 2019年度決算・2020年度予算
- P. 16 Topics
 - ・大学院看護学研究科（修士課程）がスタートしました
 - ・健康科学部福祉工学科 定員増申請が認可されました
 - ・日本福祉大学附属クリニックさくらが開院 ほか
- P. 24 学生たちの活躍
- P. 28 教職員人事異動のお知らせ
- P. 31 訃報
- P. 32 新型コロナウイルス除染講習会を開催

■ コロナ後の社会を見据えて ～第2期学園・大学中期計画終了年度の力点～

学校法人日本福祉大学 理事長 丸山 悟

1. 2020年度はどのような年度か？

2020年度は、本学にとっては、2015年度から始まった第2期学園・大学中期計画の終了年度であると同時に、第3期中期計画（2021年度～2028年度）を策定し、第3期の「先行プロジェクト」を助走させる年度となります。言わば、第2期中期計画と第3期中期計画の「接合期」（つなぎ目）に当たる年度です。

そこに、パンデミック（世界的大流行）となり、依然として感染拡大傾向が止まない新型コロナウイルス感染症の“大波”が訪れました。2020年度は、我が国にとっては“コロナ禍元年度”となることは間違いないところです。

コロナ禍への対応で余儀なくされた新しい教育形態、新しいキャンパスライフを踏まえて、「接合期」の事業がどのようなものになるか、いくつか“化学反応”が起きることへの期待を込めて、今後の展開を考えてみたいと思います。



2. コロナ禍から学ぶもの（1）

～公共的コミュニケーションへの主体的な参加で深い学びを

1998年にノーベル経済学賞を受賞されたアマルティア・セン氏も言っていることですが、今回のコロナ禍で、健康と教育こそ人間の生の発展にとって本質的な力だと実感しました。

「健康」については、WHO（世界保健機関）がその憲章（1947年採択）前文において次のように定義しています。

「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」（1951年「官報」掲載の訳）

“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

well-beingを「福祉」と訳していることに注目してほしいのですが、1998年に始まったWHO憲章全体の見直し作業の中では、spiritual（宗教的）なものまでwell-beingに含ませようとの意見が出されているようです。肉体的、精神的、社会的、そして宗教的な、完全なるwell-beingのある状態が健康と言えるわけです。しかし、しっかりとした教育が伴わなければ、その健康状態に対する実感や理解は深まりません。「健康と教育」を一体的なものとした時、それが人間の生の発展にとって本質的な力だと言えるのではないかと思います。

教育は、人々の学ぶ権利（知る権利）に対応するもので、人それぞれのキャリア発達段階に応じた自律的な学びを保障する取組みのことを言います。今回のコロナ禍の中で、私たちは、健全に生きるために真に頼るべきものは優れた「学術知」であることを知りました。そして、教育研究のプロセスにおいて要求されるルールを踏まえた「開かれた言論空間」（グローバルな「知」のネットワークを活用した公共的なコミュニケーションのサイト）に主体的に参加することを通じて深い理解が得られることがわかったことも、重要な教訓とする必要があると思います。

3. コロナ禍から学ぶもの（2）

～モニタリングやオンライン化の進行をDX^{*}に繋げる

（※：Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション）

コロナ禍が続くことで、人と人の濃厚接触やクラスター等の発生がなかったかを調べるモニタリングと、身体的距離を確保するために仕事・学習・交流・ゲーム等をオンライン上で行うという意味での「仮想空間」（サイバースペース）の活用を増やすことが奨励される流れになっています。

サイバースペースには、その中の「コミュニティ」を稼働させるために守らなくてはならない「約束事」が多く存在します。ルールやプロトコル（同意事項）の無視や拒絶は絶対にできないので、実社会よりも効率と公正の両立を可能とする架空国家（ユートピア）となる可能性を秘めています。一方で、人びとの日常の監視が進み、人間がハイテクに支配・操作されるというディストピアに向かう側面もないわけではありません。これを、言葉の真の意味の「DX」（デジタル変革）、「進化したデジタル技術を活用させることで人々の生活をより良いものへと変革する」方向にリードしていくことが求められています。

4. 2020年度は「組み合わせる」ことの威力が実感できる年度になる

～追求するのは、より深い学び

2020年度は、第2期中期計画事業の遂行の中で築き上げた成果と反省のうえに立って、いくつかの戦略事業を「組み合わせる」ことに力点が置かれる年度となります。例えて言うと、以下のような取組みが進みます。

①1つの授業の中での、対面授業と遠隔授業（オンライン及びオンデマンド）の組み合わせ、②クリニックの開院を始めた「健康」に関わる事業と学校・大学での教育（実習・ケーススタディ等）の組み合わせ、③リカレント教育と18歳からの通学学生に対する教育の組み合わせ（共通の「履修証明プログラム」・「学位プログラム」の設置）④オンラインを活用した、異なる学部・学科・専攻・専修の学びを組み合わせた多職種連携教育等のPBL（Problem-based Learning）型アクティブラーニングの実施、⑤「健康と教育」をテーマに、ミクロ、メゾ、マクロを一体的に組み合わせた研究事業の推進、⑥事業単位別のガイドラインと法人のガバナンスコードの組み合わせ及びその公表

上記のような「組み合わせ」が、デジタル技術の活用を伴ってその「巧みさ」が活かされた時、これまでとは違った新しい力が身に付き、より深い学びに結び付けていけると確信しています。2020年度は、その学びの具体的な姿を、事業主体の政策・方針とともに示し、学園・大学の事業の質を人々のwell-beingを広げる方向に転換（トランスフォーメーション）する「接合期」の年となる、と期待を込めて宣言します。

略歴

丸山 悟（まるやま・さとる）

1954年、長野県生まれ。'78年早稲田大学法学部卒業。'79年学校法人法音寺学園（現・学校法人日本福祉大学）職員に採用。企画広報課長、学園企画部長、企画・事業局長を経て、企画局長。2009年総合企画室長、常任理事。'13年4月から現職。日本私立大学協会理事。全日本ソフトボール連盟副会長、東海地区大学ソフトボール連盟会長。

■ コロナ禍で広がる「オンライン授業」

日本福祉大学の対応と今後

新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、日本福祉大学では学生、教職員の健康を守ることを第一に考えつつ教育の質を保つ策として、2020年5月11日(月)から6月27日(土)まで、全ての科目でWeb会議システム「Zoom」を用いたオンライン授業を実施しました。その準備過程から今後の展望について、オンライン授業の整備を先導した全学教育センター長に語っていただきました。

短い準備期間の中で、スムーズかつ質の高い授業を目指して。

オンライン授業の準備は大学を閉鎖した4月上旬から慌ただしくスタートし、まずは学生に対して、受講に必要な端末の有無、自宅の通信環境などを確認する「情報環境アンケート」を実施しました。結果、ほとんどの学生に支障がないということで、全学教育センター主導のもとICT推進室で「Zoom」のシステム整備に着手しました。システム整備のポイントは、誰でもすぐに使える簡易な手順にすること。本学は文系の研究者が多く、非常勤の先生方も福祉や教育・医療の現場で働いている方など、授業する側のパソコンスキルはさまざま。パソコン操作が苦手な教員でも使いやすいよう手順を簡素化することで、短い準備期間でもスムーズかつ質の高いオンライン授業の実現を目指しました。その後、教員向けのオンライン授業マニュアルを作成してデジタルで共有するとともに、授業開始に向けた打ち合わせをZoomにて開催しました。

学生の環境整備については、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれも持っていない学生には大学がノートパソコンを貸与。通信環境については、大手キャリア各社が新型コロナウイルス感染症に伴う支援措置として学生の利用者を対象に通信料無償プランを提供したため、大学はその他の必要物資を購入する際の支援として通学生を対象に情報環境整備等支援一律給付(一律3万円)を行いました。

基本はリアルタイム配信。機能を駆使し、学習の質を保証。

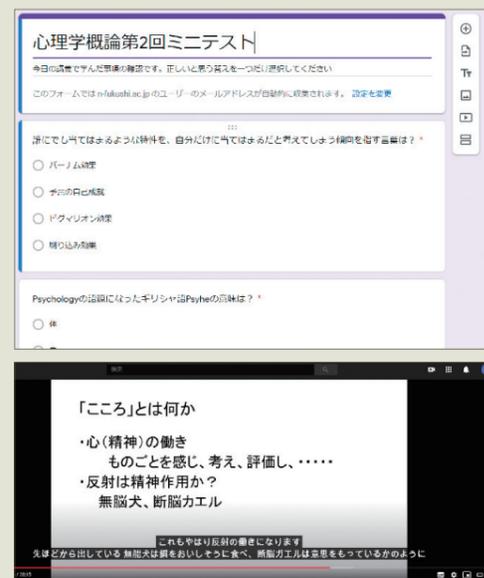
準備が整い、5月頭の教員と学生によるZoomの接続試行を経て、無事に11日(月)からオンライン授業を開始することができました。基本的に時間割に沿ったリアルタイム配信ですが、授業は必ず録画し、通信回線のトラブル等で視聴に支障があった学生がいればオンデマンドで学習してもらえるようにしました。

私が受け持つ1、2年生の心理学概論の授業を例に挙げると1コマ90分のうち最初の30分で前回の復習と当日の学習ポイントの説明。その後10分ほどZoomの投票機能やチャットで学生の声を拾い、続いて事前に作成してYouTubeにアップした40分間の映像コンテンツを観てもらいます。そして残り時間で



全学教育センター長、教育・心理学部教授
中村 信次

Googleのアンケート機能「Google フォーム」を使ってミニレポートとミニテストを実施。その提出を持って出席とみなしました。科目の特性や教員のスタイルによって授業の中身はバラエティに富み、私のようにZoomの投票機能を使う先生がいたり、ブレイクアウトセッション機能で少人数の学生同士ディスカッションさせたり、あらゆる機能を駆使して学習の質を落とさないよう各教員が工夫を凝らしました。オンライン授業は、90分ノンストップで行うと教員も学生も集中力が持ちません。そのためWebの便利機能や映像コンテンツ、課題をバランスよく組み合わせ、最も学習効果が高いものを探っていました。



オンライン授業の様子

想像以上の効果を実感し、障害学生にもメリット大。

個人的には、オンライン授業は想像以上の効果があったと感じています。私の授業の場合、対面授業よりも出席率が高く、学生からの質問も3倍ほどに増えました。特に1年生は危機意識からか、2~4年生に比べてレディネス(学習の準備状況)や勉強意欲が高い傾向にあり、これは対面授業開始後も続いています。また本学には障害のある学生も多くいますが、普段から生活必需品としてパソコンを活用してパソコンスキルが非常に高いためスムーズに対応できていました。中でも肢体不自由で登校自体が大変な学生にとって、メリットはかなり大きかったと思います。オンライン授業は困難ではないかと思われた聴覚障害学生でも、教員が字幕を付けたり、Zoomの字幕機能を使うことで対面授業と差がほとんどなかったと聞いています。

想像以上の効果が得られた一方で、対面でしかできない教育があると実感したのも事実です。大学の設備を使用して行う実験・実習は対面授業開始日の6月29日(月)から再開していますが、地域に出て学ぶフィールドワークは未だできていない状況です。本学は「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」がコンセプトですから、学生が地域に飛び出し、地域の住民や組織の方々から実践的に学ぶフィールドワークはいわば生命線。感染状況が落ち着き次第、開始する予定ですが、万に備え、新たな方法でできないかと模索中です。その一つとして、先日、社会福祉学部の半田市亀崎地区の課題に取り組むゼミナールでバーチャルフィールドワークにトライしました。担当教員1名が亀崎に行き、NPO法人「亀崎まちおこしの会」の世話役の方とともにZoomでビデオ中継をし、学



半田市亀崎地区のバーチャルフィールドワークの様子

生は映像を見ながら質問をするといった実践に限りなく近い内容です。こうしたバーチャルフィールドワークで、対面同様にヒューマンスキルが高まるのか。その検証を重ねるとともに、少人数制にするなど感染症対策を万全にし、対面で行う授業スタイルも議論を重ねているところです。

本学の強みが活かしたオンライン授業、対面授業開始後も一部を継続。

総じて大きな混乱もなくオンライン授業に移行できたのは、本学が通信教育部を持ちICTを使った教育改革に長年取り組んできたことと、強力なICT部隊を持っていたことが功を奏したからだと思います。独自のWEB学習管理システム「nfu.jp」は通信教育部の学生に限らず通学生も日常的に活用しており、通学の2~4年生はオンデマンド授業を経験済み。そのため、オンライン授業への抵抗がほとんどなかったと思います。また今回のオンライン授業では、デジタル資料の場所を「nfu.jp」に記載し、それに沿って学生たちがGoogleドライブやYouTubeに資料を取りに行くスタイルにしました。つまり容量の大きいデータを外部に出すことで、他校で見られたサーバーのバンクを事前に防ぐことができました。これらは本学の強みが活かした結果だと思います。

今回の経験を活かし、対面授業が再開してからも柔軟な教育を実施しています。例えば、これまで用紙で行っていたミニツッパーパーをスマートフォンでできるよう電子化するなど、効果が高かったツールを対面授業に取り入れました。また高齢の家族と同居していて外出が不安な学生や自身が病気の治療中という学生には、対面授業をZoomで同時配信する特別措置も行っています。他にもオンライン授業の経験を活かしていこうと、オンライン授業についてのアンケートを8月中に教員に向けて、9月に学生に向けて実施します。その結果を分析し、さらなるフィードバックを行う予定です。

時代に即した、新たな学びのスタイルの確立を。

本学では国の助成で行うAP(大学教育再生加速プログラム)として先進的な教育に取り組み、学生がどのような力を身につけたのかを具体的に可視化していますが、今後はオンライン授業も取り入れながら加速させていくフェーズにきています。新型コロナウイルスの一日でも早い収束を願うばかりですが、新型コロナウイルス以外の感染症が今後蔓延する恐れもありますし、豪雨や地震、台風などの天災で対面授業が叶わなくなる可能性もある。そういったあらゆる事態を視野に入れ、オンライン授業実施のアンケート結果はもちろん、他大学とも情報共有や意見交換をし、時代に即した大学教育、新しい学びのスタイルを模索していきます。

学校法人日本福祉大学

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生・生徒への総合支援対策

新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、日本福祉大学、日本福祉大学中央福祉専門学校、日本福祉大学付属高等学校の学生・生徒の中から一人たりとも退学者を出さないことを目的とし、要支援学生・生徒に対して適切かつ継続的な支援を実施してまいります。《総合支援対策：総額約5億5000万円》

日本福祉大学～学生・大学院生の学びの継続を保障する総合支援策

1. オンライン授業実施による受講環境整備の支援

- ① 5月11日からの授業開始に向けて、緊急貸与奨学金
 - ・授業開始に向けて情報環境整備にかかる費用および日常生活に困窮している学生を対象に、1口5万円、最大2口10万円を無利子貸付。
- ② 通学課程の学生・大学院生への一律給付
 - ・オンライン授業受講のための情報環境整備、通信料負担等への支援として、通学課程の学生・大学院生に3万円の一律給付。

2. 経済的に困窮している学生への経済的支援

- ① 経済援助給付奨学金
 - ・経済援助給付奨学金の既存制度の枠を拡大して実施。文部科学省「高等教育修学支援新制度」の適用を受けていないが、経済的に困窮している学生を対象に、前期120名、後期120名に奨学金25万円を給付（既存制度は前期20名、後期20名）。
- ② 学費減免
 - ・文部科学省「高等教育修学支援新制度」の適用を受けていないが、経済的に困窮している学生100名に、後期授業料の1/2を減免。
- ③ 学費延納の一部条件緩和等
 - ・前期学費（納期4月30日）に係る延納（6月末日まで）、後期学費（納期10月31日）に係る延納（12月末日まで）について、学費減免を受けている留学生を含めて適用。
 - ・延納適用を受けたうえで、一旦学費未納除籍内示がなされた後に、学費を完納して内示取消の申出をした場合には、除籍内示取消手数料を免除。

3. 学生への相談支援

- ① 学生相談支援体制の拡充
 - ・情報環境整備及び経済支援のための学生相談窓口の設置による対応。
 - ・要支援学生（障害のある学生、留学生、経済的困窮学生等）へのアウトリーチ支援。
- ② オンライン授業期間における就学上の支援
 - ・障害のある学生がオンライン授業を受講する上での支援。
 - ・資格取得のための実習教育等の代替実施を含めた資格取得の支援。
 - ・図書館のオンライン・データベース活用支援、宅配サービスによる図書貸出支援。
 - ・オンラインによる就職活動支援。
- ③ 関係機関（行政、社協等）と連携した諸制度の活用支援
 - ・特別定額給付金、小口生活福祉資金貸付などの申請手続き支援。
- ④ 学生へのアルバイト先の支援
 - ・学内の業務等で学生に可能な業務を、アルバイト等が出来なくなり生活費等の収入が得られなくなった学生に対して積極的に、かつ優先的に採用。
 - ・大学が提携・連携する法人、NPO等でのアルバイトの紹介。

日本福祉大学中央福祉専門学校

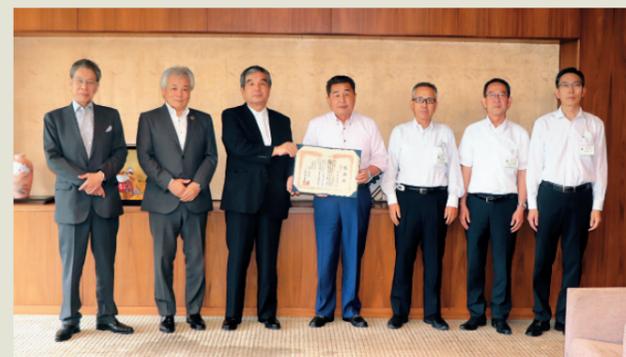
- 1) 緊急経済支援給付奨学金
- 2) 「大橋伸江 新型コロナウイルス家計急変等奨学金」
- 3) 学費に係る延納の一部条件緩和（前期・後期納付に対応）
- 4) 社会福祉士科夜間課程（1年課程）における特別措置
- 5) 学生用貸出し情報機器の整備

日本福祉大学付属高等学校

- 1) 家計急変家庭への給付型奨学金の財源充実
- 2) 学修に係る経費負担への支援
 - ・学年関係費の支援として一律1万円を給付

本学への支援について

東海市



出席者で記念撮影

7月6日、東海市役所にて「市内大学新型コロナウイルス感染症対策費交付金支給決定通知交付式」が行われました。

この交付金は、東海市が市民や事業者に対して行う新型コロナウイルス蔓延に伴う支援策の1つとして制定されたもので、東海市内のキャンパスで在学する学生の「学びの補償」のため、オンライン授業の実施に向けた環境整備や学生への支援等に関する経費として支給されるものです。

鈴木淳雄東海市長から児玉善郎学長へ支給決定通知書が交付されました。

また、丸山悟理理事長から鈴木東海市長へ感謝状を贈呈しました。

贈呈式後は、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する本学の取り組みや、現在の学生の状況等について意見交換が行われました。鈴木市長からは「交付金を学生の皆さんのために役立てることで、優秀な学生の育成に努めて欲しい」と、本学への期待が述べられました。

出席者：左から、黒川道男専務理事、児玉善郎学長、丸山悟理理事長、鈴木淳雄東海市長、佐治錦三副市長、花田勝重副市長、加藤千博教育長

美浜町



左から児玉善郎学長、齋藤宏一美浜町長、丸山悟理理事長

9月4日、美浜町役場にて「美浜町・日本福祉大学 新型コロナウイルス感染症対策支援協力金支給決定通知書」の交付式が開催されました。

この協力金は美浜町が町民や事業者に対して行う新型コロナウイルス蔓延に伴う支援策の1つとして制定されたもので、学生の学びの継続支援や生活支援を目的に支給されるものです。

まず齋藤宏一町長から児玉善郎学長へ支給決定通知書が交付され、その後丸山悟理理事長から齋藤町長へ感謝状が贈呈されました。

交付式後は、新型コロナウイルス禍における学生等の状況について意見交換がなされました。

美浜町日本福祉大学家主組合



左から、片山善博学生部長、都筑長武組合長、田島裕二副組合長、千賀威昌学園事務局長

美浜町日本福祉大学家主組合より、本学の教育・研究振興協力募金「日本福祉大学 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援募金」に寄付をいただきました。

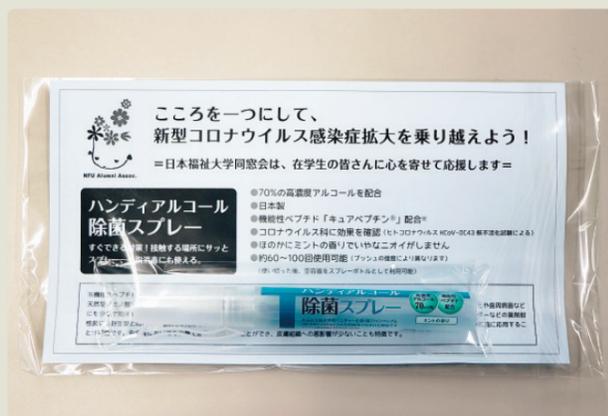
8月7日に同家主組合の都筑長武組合長、田島裕二副組合長を訪ねて、片山善博学生部長及び千賀威昌学園事務局長から感謝の言葉を伝えるとともに大学からの感謝状の贈呈を行いました。

都筑組合長は「コロナ禍で大変な学生の皆さんの支援にぜひ役立てていただきたい」と述べられ、大学からは、感染拡大防止に対する取り組みや、現在の学生の状況等について報告し、意見交換を行いました。

今後も大学と指定アパート、地域での連携をはかりつつ、学生支援を継続していくことが確認されました。

日本福祉大学同窓会

日本福祉大学同窓会より、在学生を対象にハンディアルコール除去スプレーを寄贈いただきました。



全国の地域同窓会の皆さまからのメッセージはこちら
http://nfudousou.auy.jp/support/schoolsong_badge/koronanimakeruna

全国の地域同窓会の同窓生および俳優の温水洋一さん、中日ドラゴンズ2軍投手コーチの浅尾拓也さんから在学生の皆さんへの応援メッセージを頂戴しております。

同窓生 (社会福祉学部 1989年卒業)
温水 洋一 (俳優)

在学生のみなさん。
 これからもどうか前を向いて頑張ってください！
 距離は取っても、気持ちは近く、マスクはしても口角あげて。
 経済的にも苦しいでしょうが、何とか乗り越えられる事を願ってます。
 学び、時に遊べる喜びを噛みしめながら、キャンパスライフを過ごして下さい。
 いつか必ず平穏な日常は戻ってきますから。

同窓生 (福祉経営学部《通学》2007年卒業)
浅尾 拓也 (中日ドラゴンズ2軍投手コーチ)

自分で出来る限りの体調管理をしっかりして、人との出逢いに感謝し、学生生活を楽しんでください。

2019年度 学校法人日本福祉大学事業報告 (概要)

2019年度は、第2期学園・大学中期計画(計画期間:2015~2020年度)の最終段階として、本学園は計画達成に向け、次期中期計画の策定も見据えつつ諸事業に取り組みました。年度最終期には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、安全確保を最優先に一部計画の中止・延期等を行うとともに、次年度に向けてオンライン授業実施等の新たな諸課題への対応に取り組むこととなりました。

当年度に取り組まれた主な事業は以下のとおりです。

- 「高等教育修学支援新制度(2020年度施行)」への対応及び個々の学生の学習支援に向け、GPA、年間修得単位数、出席率等の学修管理指標の基準設定等、次年度以降の教育の質保証に関する活動方針を定め、その推進組織として2020年度から「全学学修支援委員会」を設置することを決定しました。
- 文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP事業)」の最終年度として、「統合学生カルテ(eポートフォリオ)」等の教育情報システムの全キャンパスでの利用開始等、計画事業を遺漏なく進めました。
- 通学課程の学部卒業生の半数以上(591名)が「ふくし・マイスター」に認定される等、COC事業を継承し、地域連携教育の発展に取り組みました。また、地域連携の更なる推進に向け、各学部が地域連携ポリシーを策定し、各々ポリシーに基づき地域に関わる取り組みを進めていくことが確認されました。研究面においても、当年度新設の学内研究制度「地域連携型研究助成制度」や、東海市の助成による「東海市大学連携まちづくり推進事業」を通じ、地域との連携に基づく調査研究活動・事業を推進しました。
- 2020年度からの子ども発達学部の学部・学科・専修名称変更(子ども発達学部→教育・心理学部、心理臨床学科→心理学科、保育専修→保育・幼児教育専修)に係る申請手続を完了しました。
- 社会福祉士国家試験において、通学・通信課程双方で合格者数全国第一位を維持、また、精神保健福祉士国家試験結果では、通信課程は合格者数・合格率ともに全国第一位を維持しました。健康科学部における理学療法士・作業療法士・介護福祉士国家試験、及び看護学部における看護師・保健師国家試験においても、高合格率を維持しました。
- 本学の多職種連携教育のコンセプトに基づいた学部横断的教育科目の設置の第一段階として、全学教育センターのオンデマンド科目「ヒューマンケアのための多職種連携」の開発に取り組み、新規開講しました。
- 大学院において、9月に文部科学省より看護学研究科の設置認可を受け、2020年度開設の準備を整えました。また、2021年度のスポーツ科学研究科(仮称)の設置に向けて準備を進めました(文部科学省

に設置認可申請中)。

- ベトナムのハノイ大学日本語教師インターンシップ・プログラムへの学生派遣、英国ウースター大学との大学間連携、タイのシーパトゥム大学との共同ワークショップ等、教育・研究のグローバル化の進展に取り組みました。
- 大学全体の就職率は98.4%(対就職希望者就職率4月末時点)と、昨年度を僅かに下回るものの、高水準を維持しました。
- 就職支援協定を締結した3県(長野・石川・福岡)に加え、当年度新たに4県(福井・静岡・富山・三重)と協定を締結しました。また、各地域の同窓会とも連携しつつ、Uターン就職支援に取り組みました。
- 当年度の厚生労働省老人保健健康増進等事業「潜在看護職を活用した新たな地域包括ケアと災害にも強い地域ネットワークを築く調査・研究事業」に採択され、知多半島4市3町の連携・協力のもと、希望する潜在看護職を対象に、災害避難所での衛生管理、応急手当等について研修会を実施しました。
- 付属高等学校では、2021年度入試からの大学入学共通テスト導入に対応し、進学指導と新指導要領改訂を見据えたカリキュラム改定を進めるとともに、国立大学への進学実績向上に向け、恒常的な進学補習体制を構築しました。部活動においても、競技成績の向上や、ポジションアップの実績を残し、生徒募集力向上に繋げました。
- 中央福祉専門学校では、全科で国家試験の高合格率を維持しました。また、同校の付帯事業を母体とした学園附属の耳鼻咽喉科「さくらクリニック」の2020年度開設に向け、体制整備等を完了しました。
- 8年連続正科生入学者数全国一位の通信教育部に加え、大学院、社会福祉総合研修センター、及び中央福祉専門学校による各種履修証明プログラムや研修事業を通じ、学園のリカレント教育ブランド力の一層の向上を図りました。
- 三法人の連携の取り組みとして、社会福祉法人昭徳会と連携し、教育・研究・研修等、幅広い事業計画を策定しました。また、宗教法人法音寺の各支院への訪問や法音寺の各行事への参加を通じ、檀信徒との交流を図りました。
- 私立学校法改正に伴い、寄附行為の変更申請を行い、2月に認可を受けました。

*その他の事業等、詳細は学園ウェブサイトをご覧ください。

※詳細は本学ホームページをご覧ください。

2020年度 学校法人日本福祉大学事業計画 (概要)

今年度は、第2期中期計画(2015～2020年度)の完成とともに、更なる発展に向け次期中期計画を決定する重要な年度として、これまでの成果・実績を踏まえつつ、下記の方針に基づく諸事業に取り組んでまいります。

なお、現下の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各事業等の実施に際しては、学生・生徒・教職員の安全・安心を最優先に、感染防止対策を徹底します。

1) 第3期中期計画の策定においては、第2期中期計画の総括及び第3期中期計画の骨格、大学認証評価結果(2017年受審)を踏まえ、学園創立70周年(2023年)はもとより、国連SDGsへの取り組み、リニア中央新幹線開業などの国の主要政策、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」などの中央教育審議会の動向に留意し、今後の10年を見据えた計画策定とします。

2) 第2期中期計画の完了を図る上で、重点的な取り組みが必要となる以下の事項について推進します。

- 教育の質的転換に向けた質保証と改革
- 安定した入学者の確保と学部・学科単位の適正な定員管理
- リカレント教育事業の展開
- 組織ガバナンスの強化
- 財政基盤の確立

3) 教育の質的転換に向けた質保証と改革を進める中で、学部等における取り組みの確実な履行と、必要となる学部改革を進め、次の段階に繋げるべく、質の向上を図ります。特に、教育・心理学部(旧子ども発達学部)の開設を適切に行い、同分野の教育力向上に取り組めます。また、完成年次を迎えるスポーツ科学部の一期生の輩出を滞りなく行うとともに、健康科学部の改革に伴う福祉工学科の収容定員変更への準備を進めます。学生のエンロールメント・マネジメント、多様な学生の受入に伴う対応を図るとともに、地域連携教育・研究の推進、減災連携・支援、多職種連携教育・研究、スポーツ・文化振興(東京オリンピック・パラリンピック対応を含む)、グローバル化政策、情報化政策に関する取り組みを進め教育の質の向上に繋がります。2020年度(2021年1月実施)導入の「大学入学共通テスト」への確実な対応を図ります。

4) 研究においては、産学連携研究や学部横断的な取組を含めた取組を進めるとともに、中期的な研究事業戦略に基づいた取組を推進します。看護学研究科の開設を適切に行い、同分野の教育・研究力の向上に取り組むとともに、スポーツ科学研究科(仮称)の設置認可申請を適切に進め、基礎学部を含めたポ

ジショニングの向上に取り組めます。複数キャンパスでの研究科配置に伴う管理運営の対応を図ります。

5) リカレント教育事業に関しては、リカレント教育事業部会の主導の下、学内組織の有機的な連携を図り、社会的ニーズに対応した新たな取り組みを推進し、学園財政の健全化に寄与することを目指します。他方、本学の社会貢献に関する事業等の整理を図り、リカレント教育事業との棲み分けを行いつつ適正な規模を設定し、それに応じた取り組みを行います。

6) 国の政策動向に留意し、私立学校法の一部改正、高等教育の修学支援新制度、働き方改革等に適切に対応します。危機管理を含めた組織ガバナンス、マネジメント力の強化に留意し、大学版ガバナンス・コードの作成・公表、SD等適切な取り組みを進めます。また、ハラスメント防止・対策に向けた体制等の強化を図ります。

7) 研究・教育領域上の連携効果が見込まれる大学・産業界との連携、地域的な連携として、知多半島5市5町との連携(知多半島モデルの構築等)、知多半島・名古屋市南部地域、西三河地域、長野県南信地域等を視野に入れた連携を推進し、その際、地域再生、地域貢献に関わる取り組みを強化します。あわせて、キャンパス周辺地区の開発計画に留意し、関係機関との調整等を進めます。

8) 付属高等学校では、学習指導と進路指導の充実を図るとともに、部活動等の積極的な取り組みにより、生徒数の充足を図り、ポジショニングの向上に取り組めます。また付属高校中期計画に基づき、高大接続の一つのモデルとなるよう取り組みを進めます。

9) 中央福祉専門学校では、同校の中期計画を確実に推進し、教育の質的向上を図りつつ社会人教育を強化し、学生募集事業の改善を図ります。また教育フィールドの強化と新たな収益事業の推進のため、学園付属のクリニック開設に向けた準備を行います。

10) 通学課程の収容定員充足を図ることに加え、寄付金や補助金等の外部資金の積極的な獲得等に取り組む、学園財政の健全化を図るとともに、次期中期計画を見据えた財政計画の策定を進めます。

※詳細は本学ホームページをご覧ください。

検索 日本福祉大学 事業計画

2019年度決算・2020年度予算

新型コロナウイルス感染症が世界規模で猛威を振るうなか、本学園では修学の継続が困難な学生・生徒に対して総額5億円規模の総合支援策を実施しているところです。また、この取り組みに対しまして広く緊急支援募金のお願いをさせていただいたところ、多くの父母、同窓生、関係機関の皆様方から暖かいご支援を頂戴いたしました。この紙面を借りて、心よりお礼を申し上げます。

2019年度は、学園の将来計画にあたる第2期学園・大学中期計画(以下、中期計画と言う。)の後半期(2018年度～2020年度)の中間年度にあたり、教育の質的転換に向けた質保証と改革、入学定員充足に向けた取り組み、そしてリカレント教育事業の展開等に取り組んでまいりました。ご支援をいただきました関係各位の皆様

心より厚くお礼申し上げます。

2020年度は、中期計画に掲げた諸事業を滞りなく進めるとともに、次期の将来計画を策定する重要な年度となります。スポーツ科学部の完成と大学院研究科の開設、付属高等学校を含む学生・生徒の学習環境の整備に努めていきます。また引き続き多くの新入生を迎えることができるよう力を注ぐとともに、寄付金や補助金、そしてリカレント教育事業等付随事業収入の拡充に向け努力していきたいと考えています。

学園・大学の新たな発展を支える財政基盤の確立に向けて、皆様方のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

専務理事 黒川 道男

2019年度決算 および 2020年度予算

2019年度決算

- 1) 資金収支計算書(概表)
(2019年4月1日～2020年3月31日まで)
- 2) 事業活動収支計算書(概表)
(2019年4月1日～2020年3月31日まで)
- 3) 貸借対照表(2020年3月31日現在)
- 4) 学校法人日本福祉大学教育・研究振興協力募金(2019年度)

2019年度の学校法人日本福祉大学の決算は、2020年5月25日、2020年度予算については2020年3月23日開催の理事会・評議員会において決定・承認がされました。

学校法人では「学校法人会計基準」に基づいて会計処理を行い、計算書を作成しています。ここでは、同基準に定められている計算書の概表を掲載します。

2019年度決算 <2019年4月1日～2020年3月31日まで>

1) 資金収支計算書(概表)

資金収支計算書は、1年間の資金の流れを勘定科目ごとに記したものです。

収入の部			
科目	補正予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金収入	9,033,750	9,036,604	△ 2,854
手数料収入	191,990	179,935	12,055
寄付金収入	80,000	77,000	3,000
補助金収入	1,325,834	1,364,263	△ 38,429
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	234,603	237,209	△ 2,606
受取利息・配当金収入	124,000	101,866	22,134
雑収入	248,128	261,231	△ 13,103
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,953,009	1,839,400	113,609
その他の収入	365,499	1,219,120	△ 853,621
資金収入調整勘定	△ 2,297,368	△ 2,315,047	17,679
前年度繰越支払資金	4,785,277	4,785,276	1
収入の部合計	16,044,722	16,786,857	△ 742,135

支出の部			
科目	補正予算額	決算額	差異
人件費支出	5,350,638	5,343,942	6,696
教育研究経費支出	3,793,734	3,644,627	149,107
管理経費支出	1,076,953	1,047,790	29,163
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	2,947	2,946	1
施設関係支出	124,667	124,665	2
設備関係支出	258,727	258,725	2
資産運用支出	139,333	821,154	△ 681,821
その他の支出	121,995	114,694	7,301
[予備費]	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 105,677	△ 110,523	4,846
翌年度繰越支払資金	5,281,405	5,538,837	△ 257,432
支出の部合計	16,044,722	16,786,857	△ 742,135

2) 事業活動収支計算書(概表)

事業活動収支計算書は、収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです。

(単位：千円)

科目	補正予算額	決算額	差異
収入			
学生生徒等納付金	9,033,750	9,036,604	△ 2,854
手数料	191,990	182,607	9,383
寄付金	79,500	76,747	2,753
経常費等補助金	1,260,423	1,298,852	△ 38,429
付随事業収入	234,603	237,209	△ 2,606
雑収入	248,528	252,932	△ 4,404
教育活動収入計	11,048,794	11,084,951	△ 36,157
支出			
人件費	5,359,434	5,350,157	9,277
教育研究経費	4,714,902	4,551,839	163,063
管理経費	1,016,283	1,012,361	3,922
徴収不能額等	1,000	180	820
教育活動支出計	11,091,619	10,914,537	177,082
教育活動収支差額	△ 42,825	170,414	△ 213,239
教育活動外収支			
収入			
受取利息・配当金	124,000	101,866	22,134
その他の教育活動外収入	0	8,970	△ 8,970
教育活動外収入計	124,000	110,836	13,164
支出			
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	13,959	13,958	1
教育活動外支出計	13,959	13,958	1
教育活動外収支差額	110,041	96,878	13,163
経常収支差額	67,216	267,292	△ 200,076

(単位：千円)

科目	補正予算額	決算額	差異
特別収支			
収入			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	71,679	74,217	△ 2,538
特別収入計	71,679	74,217	△ 2,538
支出			
資産処分差額	104,591	106,232	△ 1,641
その他の特別支出	73,303	66,482	6,821
特別支出計	177,894	172,714	5,180
特別収支差額	△ 106,215	△ 98,497	△ 7,718
基本金組入前当年度収支差額	△ 38,999	168,795	△ 207,794
基本金組入額合計	△ 333,714	△ 38,925	△ 294,789
当年度収支差額	△ 372,713	129,871	△ 502,584
前年度繰越収支差額	△ 7,683,738	△ 7,746,234	62,496
翌年度繰越収支差額	△ 8,056,451	△ 7,616,364	△ 440,087
基本金取崩額	0	27,546	△ 27,546
翌年度繰越収支差額	△ 8,182,686	△ 7,746,234	△ 436,452

(参考)

(単位：千円)

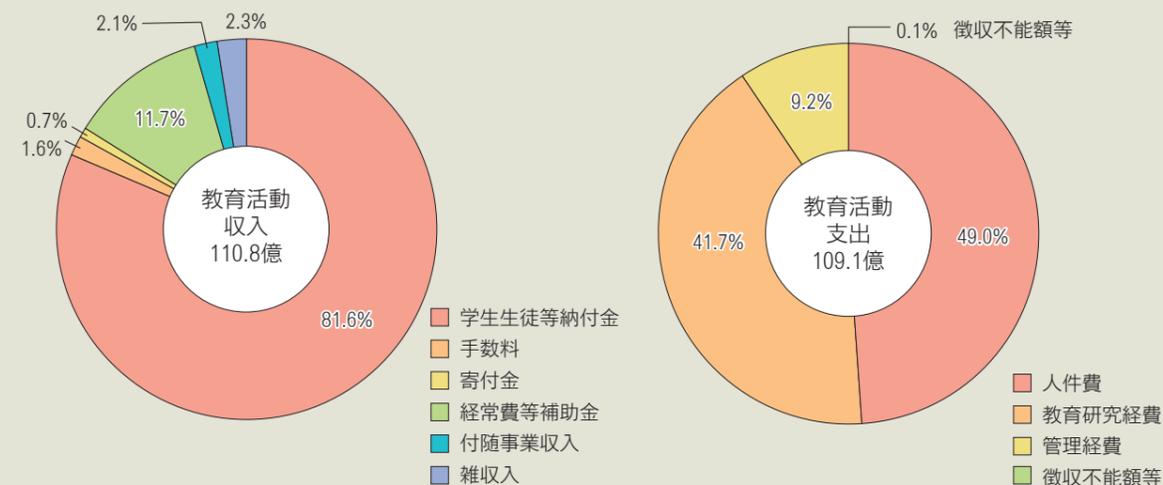
(a) 事業活動収入計	11,244,473	11,270,004	△ 25,531
(b) 事業活動支出計	11,283,472	11,101,209	182,263
(b) / (a) × 100 (%)	100.3%	98.5%	

※事業活動収入計は112.7億円、事業活動支出計は111億円となり、収支のバランスを示す事業活動支出比率は98.5%と、収入超過となりました。

※「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」のうち、収入・支出ともに98%を「教育活動収支」が占めています。その内訳は以下のグラフのとおりです。

収入の部および支出の部 構成比率

	教育活動収支	教育活動外収支	特別収支	計
収入の部	98.3% (110.8億円)	1.0%	0.7%	100.0% (112.7億円)
支出の部	98.3% (109.1億円)	0.1%	1.6%	100.0% (111.0億円)



3) 貸借対照表(2020年3月31日現在)

貸借対照表は、期末における資産、負債および純資産を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	29,998,004	30,662,755	△ 664,751
有形固定資産	22,808,061	23,478,104	△ 670,043
土地	5,217,059	5,217,060	△ 1
建物	13,432,251	13,992,969	△ 560,718
構築物	509,818	568,281	△ 58,463
教育研究用機器備品	1,000,834	1,062,939	△ 62,105
管理用機器備品	32,266	33,753	△ 1,487
図書	2,597,978	2,585,995	11,983
車両	11,405	17,107	△ 5,702
建設仮勘定	6,450	0	6,450
特定資産	6,331,217	6,307,783	23,434
その他の固定資産	858,726	876,868	△ 18,142
流動資産	6,186,108	5,091,170	1,094,938
現金預金	5,538,837	4,785,276	753,561
未収入金	315,813	259,748	56,065
貯蔵品	3,721	0	3,721
立替金	451	662	△ 211
前払金	43,047	45,484	△ 2,437
預り金引当資産	284,239	0	284,239
資産の部合計	36,184,112	35,753,925	430,187

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
支出の部			
固定負債	1,486,116	1,482,190	3,926
長期未払金	11,973	14,263	△ 2,290
退職給与引当金	1,474,143	1,467,927	6,216
流動負債	2,631,570	2,374,104	257,466
短期借入金	0	2,946	△ 2,946
未払金	67,328	70,995	△ 3,667
前受金	1,839,400	1,998,690	△ 159,290
預り金	724,842	301,473	423,369
負債の部合計	4,117,686	3,856,294	261,392
純資産の部			
基本金	39,682,790	39,643,865	38,925
第1号基本金	38,588,090	38,549,165	38,925
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	330,700	330,700	0
第4号基本金	764,000	764,000	0
翌年度繰越収支差額	△ 7,616,364	△ 7,746,234	129,870
純資産の部合計	32,066,426	31,897,631	168,795
負債及び純資産の部合計	36,184,112	35,753,925	430,187

※資産の部合計は361.8億円となり、学生数の増加による学費収入の増加により現金預金で7.5億円増加しましたが、一方で長期性預金及び貸付奨学金などその他の固定資産の減少やキャンパス整備事業に係る有形固定資産の一部除却や償却などによる減少により、資産の総額では4億3千万円の増加に留まりました。

※負債の部の合計は41.1億円となり、預り金の増加により、前年度末に比べて2億6,100万円の増加となりました。

※基本金は396.8億円となり、前年度末に比べて3,800万円の増加となりました。

自己資金で取得した資産は、第1号基本金として組み入れますが、2019年度は第2期中期計画の第IIフェーズの中間年度として、教育・研究機材の配備、施設設備の改修・整備などにより、第1号基本金が増加しました。

4) 学校法人日本福祉大学教育・研究振興協力募金(2019年度)

2019年度も、多くの方々からご厚志を賜りまして心から御礼申し上げます。同窓生や保護者の皆さまをはじめとする多くの方々から寄せいただいた寄付金については、教育・学習環境の充実や教育・研究活動費に充当させて頂きました。今後も本学の良き伝統を受け継ぎ、全国から意欲に満ちた学生・生徒を迎えるため、教職員一人ひとりが教育・研究活動に取り組んでまいります。引き続き本学園の募金事業の趣旨にご賛同を頂き、ご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

(単位：円)

(単位：円)

①個人		
寄付者区分	件数(件)	金額
大学生	2	200,000
大学保護者	59	910,000
大学同窓生	30	1,240,785
附属高等学校保護者	8	80,000
学園教職員	62	4,308,232
その他一般	18	2,569,473
個人計	179	9,308,490

②法人・団体(敬称略)		
寄付者区分	件数(件)	金額
大学同窓会	6	411,075
大学後援会	2	25,265,517
附属高等学校(同窓会・後援会・PTA)	2	1,364,912
(宗)法音寺	1	20,000,000
(株)エヌ・エフ・ユー	1	20,000,000
その他法人	5	650,000
法人・団体計	17	67,691,504

寄付金合計	196	76,999,994
-------	-----	------------

寄付金が活かされた 2019年度教育・研究活動経費のご紹介

障害学生支援の充実 (大学・高校)

障害のある学生一人ひとりのニーズを受けとめ、より良い支援方法を追求し、「ボランティア派遣制度による学習・生活支援」や「ICT機器を活用した学習サポート」の充実をはかり、誰もが学びやすい大学づくりを目指しています。また、各キャンパスで学ぶ障害のある学生の意見を取り入れながら、ユニバーサル利用が可能なバリアフリーキャンパスの充実に日々取り組んでいます。



バリアフリー対策と教育・生活環境の改善 (大学・高校・専門学校)

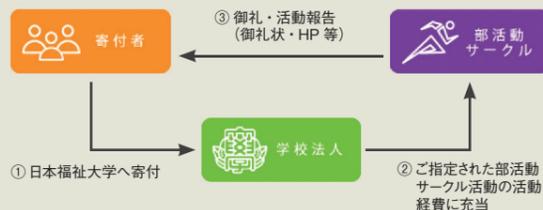
大学・学校の価値を更に向上させるため、キャンパスのバリアフリー対策及び教育・生活環境の改善に向けて、ハード面の整備を進めております。2019年度はトイレのバリアフリー化、キャンパスのLED化、教室の改修工事等を行い、より安全かつ安心で快適な学習・生活環境の充実に役立てられました。



修学困難な学生・生徒への支援 (大学・高校・専門学校)

本学では、経済的に修学が困難な学生・生徒や、学業や課外活動の成績優秀者等、目標に向かって「考動」する学生・生徒を支援する奨学金制度を整備しております。昨今の厳しい経済状況が続く中、経済的な支援を必要としている学生は急増しており、頂いた寄付金で基金の充実を図り、多くの学生・生徒に対して支援をしています。

(支援の流れ)



部活動・サークル活動への支援 (大学・高校)

「部活動・サークル活動に直接支援をしたい!」という声を多くの方から頂いて、2018年度より「スポーツ・文化・サークル活動支援基金」を開始致しました。これらの基金は、全てご指定を頂いた部活・サークルに直接届けられ、各部活・サークル活動の強化・充実に役立てられました。

その他

教育の情報化整備 / Uターン就職支援 / ゼミナール活動援助金 / 特別強化指定部支援 / 災害ボランティアセンターの運営 / ボランティア活動費 / 周年事業 (日本福祉大学大学院・中央福祉専門学校・社会福祉総合研修センター) 等

募金ウェブサイトリニューアルのお知らせ

2019年11月1日(金)に「学校法人日本福祉大学教育・研究復興協力募金」のウェブサイトを、リニューアルいたしました。新ウェブサイトにおいては、皆様からいただいた募金に係るご報告のページを新たに設け、募金を活用した本学の活動・取組等を積極的に公表させていただいております。

今後も寄付者の皆様に対して、当ウェブサイトを通じてご報告やご案内等を紹介させていただき、本学の「可視化された募金活動」の発信源として積極的な情報公開に努めて参りますので、引き続き、皆様方からの温かいご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

▼「学校法人日本福祉大学教育・研究復興協力募金」ウェブサイト
※スマートフォンにも完全対応
<http://www.n-fukushi.ac.jp/about/bokin/index.html>

〈日本福祉大学トップページからアクセスする場合〉
日本福祉大学トップページ (<http://www.n-fukushi.ac.jp/>) 下部の「学校法人日本福祉大学へご支援をお考えいただいている皆様へ」にアクセス



日本福祉大学教育・研究復興協力募金

- 1 募集期間 4月1日から3月31日まで(毎年度)
- 2 募集金額 一口1万円以上 ※一口以上何口でも結構です。
- 3 寄付金使途 5項目(12種類)からお選び頂けます。
- 4 個人情報の取扱い
ご記入頂きました個人情報は、お知らせした利用目的以外の目的では使用致しません。

寄付金使途

A 教育・研究へ	①教育支援募金 ②グローバル支援募金 ③Uターン就職支援募金 ④研究支援募金 ⑤社会貢献活動支援募金
B キャンパス整備へ	⑥学校・キャンパス整備募金
C 経済的支援へ	⑦奨学金募金(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援募金)
D スポーツ・文化・サークル活動へ	⑧大学・特別強化指定部A ⑨大学・特別強化指定部B ⑩大学・サークル活動 ⑪高校・部活動
E ボランティア活動へ	⑫被災地・災害ボランティア活動支援募金

**新型コロナウイルス
感染拡大に伴う緊急支援募金**
学生・生徒のために皆様のお力をお貸しください

2020年度予算 (2020年4月1日～2021年3月31日まで)

1) 資金収支予算書 (概表)

(単位:千円)

収入の部	年度	2020年度 予算額	2019年度 予算額	差異
学生生徒等納付金収入		9,242,898	8,942,379	300,519
手数料収入		191,990	186,903	5,087
寄付金収入		150,000	150,000	0
補助金収入		1,285,053	1,292,500	△7,447
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		175,863	212,380	△36,517
受取利息・配当金収入		100,000	100,000	0
雑収入		172,151	181,043	△8,892
借入金等収入		0	0	0
前受金収入		1,953,009	1,941,279	11,730
その他の収入		△229,708	349,922	△579,630
資金収入調整勘定		△2,143,028	△2,171,177	28,149
前年度繰越支払資金		5,281,405	5,194,942	86,463
収入の部合計		16,179,633	16,380,171	△200,538

(単位:千円)

支出の部	年度	2020年度 予算額	2019年度 予算額	差異
人件費支出		5,459,274	5,303,229	156,045
教育研究経費支出		3,975,113	3,862,687	112,426
管理経費支出		945,290	942,836	2,454
借入金等利息支出		0	0	0
借入金等返済支出		0	2,947	△2,947
施設関係支出		153,001	0	153,001
設備関係支出		540,211	100,615	439,596
資産運用支出		65,476	66,829	△1,353
その他の支出		124,408	131,500	△7,092
[予備費]		80,000	80,000	0
資金支出調整勘定		△441,706	△95,000	△346,706
翌年度繰越支払資金		5,278,566	5,984,528	△705,962
支出の部合計		16,179,633	16,380,171	△200,538

2) 事業活動収支予算書 (概表)

(単位:千円)

科目	年度	2020年度 予算額	2019年度 予算額	差異
収入				
学生生徒等納付金		9,242,898	8,942,379	300,519
手数料		191,990	186,903	5,087
寄付金		148,950	148,950	0
経常費等補助金		1,285,053	1,292,500	△7,447
付随事業収入		175,863	212,380	△36,517
雑収入		172,351	181,043	△8,692
教育活動収入計		11,217,105	10,964,155	252,950
支出				
人件費		5,459,274	5,303,229	156,045
教育研究経費		4,873,114	4,782,155	90,959
管理経費		966,593	981,023	△14,430
徴収不能額等		0	0	0
教育活動支出計		11,298,981	11,066,407	232,574
教育活動収支差額		△81,876	△102,252	20,376
収入				
受取利息・配当金		100,000	100,000	0
その他の教育活動外収入		0	0	0
教育活動外収入計		100,000	100,000	0
支出				
借入金等利息		0	0	0
その他の教育活動外支出		0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0
教育活動外収支差額		100,000	100,000	0
経常収支差額		18,124	△2,252	20,376

(単位:千円)

科目	年度	2020年度 予算額	2019年度 予算額	差異
収入				
資産売却差額		0	0	0
その他の特別収入		6,050	21,050	△15,000
特別収入計		6,050	21,050	△15,000
支出				
資産処分差額		12,000	31,600	△19,600
その他の特別収入		0	0	0
特別支出計		12,000	31,600	△19,600
特別収支差額		△5,950	△10,550	4,600
[予備費]		80,000	80,000	0
基本金組入前当年度収支差額		△67,826	△92,802	24,976
基本金組入額合計		△391,580	△108,465	△283,115
当年度収支差額		△459,406	△201,267	△258,139
前年度繰越収支差額		△8,056,451	△8,182,686	
翌年度繰越収支差額		△8,515,857	△8,383,953	
翌年度繰越収支差額		△8,383,953	△5,114,688	

(参考)

(単位:千円)

(a) 事業活動収入計	11,323,155	11,085,205
(b) 事業活動支出計	11,390,981	11,178,007
(b) / (a) × 100 (%)	100.6%	100.8%

学校法人は、その公共的性格から公的助成(補助金)や税法上の優遇措置などが取られており、また収入の大部分が授業料などの学生生徒納付金からなっています。そのため、保護者など関係者の皆様や広く一般の方のご理解を得るために財務情報の公開を行っています。2019年度決算関係書類(資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表、財産目録概表、監事および独立監査法人による監査報告書、事業報告書)および2020年度予算書類・事業計画は、各キャンパスにて閲覧できます。また、本学ホームページ (<http://www.n-fukushi.ac.jp/koukai/index.html>) でも公開しています。

■学校法人会計基準 用語解説

資金収支計算書

教育研究活動やこれに付随する活動など、学校法人が行う活動全般のうち当該会計年度に対応する収入および支出の内容を明らかにし、また現金や随時引き出し可能な預貯金(支払資金)の収入および支出のてん末を明らかにします。

事業活動収支計算書

事業活動(教育活動、教育活動外、特別活動)ごとの収入および支出の内容を明らかにし、基本金組入後の事業活動収入で予算措置される事業活動支出との均衡の状態を明らかにします。①教育活動収支は、教育や研究に係る収支のこと。②教育活動外収支とは、経常的な財務活動および収益事業に係る活動に関する収支のこと。③特別収支とは、特殊な要因によって発生した臨時的な事業活動収支のことをいいます。

貸借対照表

バランスシート(BS)ともよばれます。学校法人が現在どれだけの資産、負債・純資産を保有しているかが示されています。

基本金

学校法人が教育研究活動を円滑に遂行していくために、中長期的計画に基づいて必要となる資産を取得し、教育水準を低下させることなく継続的に保持するために維持すべき金額で、事業活動収入から組み入れられたものをいいます。

前受金

翌年度に入学する学生・生徒からの納付金の前受け分です。貸借対照表(BS)において「流動負債」に計上されるのは、来年度に属する収入である前受金は、翌年度分の収入から一時的に「借りて」いるとみなされるためです。

減価償却

時間の経過によりその価値が減少する固定資産に対して、決められた耐用年数にわたって、毎年少しずつ費用に計上しながら貸借対照表に載せる金額を減らしていく手続きのことです。減価償却費は、事業活動収支計算書の教育活動収支・支出の部「教育研究経費」「管理経費」に計上されています。

(参考文献)

新日本有限責任監査法人「Q&A 学校法人会計の実務ガイドライン」

Topics

▶ 大学院看護学研究科（修士課程）がスタートしました

4月1日、大学院看護学研究科が開設され、7名の1期生を迎えました。

研究科長
メッセージ

「看護」を奥深く追究し、実践に活かせる研究力を養成

看護学研究科長 教授（看護方法学領域）
宮腰由紀子

当看護学研究科は看護学の主要な7領域で構成していることから、所属する大学院生の研究課題は多彩で研究方法も多様です。そのため、自ずと相互に刺激しあう中から関心と知識が拡大し深化する変化が生まれます。大学院生の皆さまと共に、調べれば調べるほど奥が深い研究の魅力と、研究成果を実践に還元できた時の嬉しさを、味わえる時を楽しみにしています。

Topics

▶ 健康科学部福祉工学科 定員増申請が認可されました

最近の志願者動向と社会的要請をふまえ、2021年度からの日本福祉大学の収容定員増（健康科学部 福祉工学科）に係る学則変更の認可申請を文部科学省に行い、8月5日付で文部科学大臣より認可を受けました。

2021年度より健康科学部福祉工学科の入学定員は、右表の通りとなります。

学科・専修	入学定員	
	現 行	2021年4月より
健康科学部福祉工学科	70名	100名
情報工学専修	30名	40名
建築バリアフリー専修	40名	60名
大学総計	1,465名	1,495名

～活躍する福祉工学科卒業生・在校生～



◆ 2019年3月卒業
大前 翔さん

フランスベッド株式会社勤務。
8月23日放映24時間テレビ「ふくし」の未来へ前向きに動く!! 日本福祉大学卒業生」に出演しました。



◆ 2020年3月卒業
宮田 航輔さん

パナソニックリフォーム株式会社勤務。
3月に2019年度 日本建築学会東海支部 学生優秀学術講演賞を受賞しました。



◆ 建築バリアフリー専修2年
竹内 勇真さん

住宅設計作品「虚心」が「建築新人戦2020」で8選に選ばれました。

Topics

▶ 日本福祉大学附属クリニックさくらが開院

6月1日付で文部科学大臣より、学校法人日本福祉大学の教育研究事業に付随する事業として診療所の設置が認められ、9月4日に『日本福祉大学附属クリニックさくら』が開院しました。

本クリニックは、日本福祉大学中央福祉専門学校「ことばと聴こえの支援室さくら」が、鶴舞の地において10年を超える歴史の中で獲得した、高い実績と信頼を基盤にしています。地域の方々にとって、一般診療のクリニックという親しみやすい場で、より高い専門性が求められる「ことばと聴こえ」の領域の医療を提供できることが、大きな特徴です。患者さまとご家族に寄り添い、地域の皆さまに信頼され、親しまれるクリニックを目指していきます。

クリニック
の
特 徴

1 みみ・はな・のどの疾患に幅広く対応します



中耳炎や、アレルギー性鼻炎、急性咽喉頭炎など、みみ・はな・のどの一般的な疾患に幅広く対応します。また、乳幼児・小児の聴こえとことばの遅れ、新生児聴覚スクリーニング後の精密検査、補聴器外来、人工内耳の調整、めまい、いびき・睡眠時の無呼吸などの診療も行います。

2 高度な聴力検査機器を備え、検査・診断を行います



一般的な聴力検査装置に加え、乳幼児・小児の方に対して遊戯などを通じて音への反応をみる乳幼児聴力検査装置や脳波聴力検査装置を備え、聴力の検査・診断を行います。また、補聴器の調整では専用の補聴器適合検査装置を用いて、より確かな聴力の改善を目指します。

3 日本福祉大学中央福祉専門学校言語聴覚士科と連携し、ことばと聴こえの訓練を行います



当院の専任言語聴覚士と、日本福祉大学中央福祉専門学校言語聴覚士科の教員が連携し、言語、聴覚、発声・発語、嚥下の問題や、コミュニケーションや社会性のつまづき、読み書きの問題などに幅広く対応します。

診療案内

JR・地下鉄鶴舞駅より徒歩約8分。七本松交差点を西にすぐ。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	—
14:00～18:00	●	●	—	●	●	—	—

【診療科】耳鼻咽喉科・リハビリテーション科（言語聴覚療法）

【受付時間】午前9:00～11:40 / 午後14:00～17:40

【休 診】水曜午後 / 土曜午後日 / 祝祭日

※ 14時～15時の時間帯は、ことばと聴こえの訓練のみ実施

Topics

くらそっと東海店がリニューアルオープン



くらそっとユウナル東海店

株式会社エヌ・エフ・ユーが運営する「くらそっとユウナル東海店」は福祉用具貸与販売事業所とカフェを併設するスタイルで、多世代が集まる場となっています。

皆さまの「暮らしに“そっと”寄り添う。」ことを願って「Kurasott（くらそっと）」がオープンから5年のこの春、コンセプトおよびテーマを見直し、リニューアルオープン。暮らしやすさ・生きやすさ・食べやすさをサポートするために、人・物・情報など全てのことを結ぶ「むすび」のきっかけづくりの場所としてご利用頂けるように「むすび」を大切にしています。

① カフェメニューの変更



おむすびランチ
価格：500円（税込）
※からあげ（2個）追加の場合は+100円、ドリンク追加の場合は+200円

「むすび」をテーマにした新メニュー、「おむすびランチ」ができました。知多半島でとれたお米・野菜を使用しており、おにぎりの具は昆布・梅です。

② ふくし用具ショールームのモデルチェンジ



福祉用具の紹介スペース モデルルームの様子

カフェとショールームをつなぐスペースを使用して暮らしに役立つ商品を紹介。実際に手に取って体験できる環境となっています。

また、店内の一区画をモデルルームとしてテーマに合わせた福祉用具を展示しています。テーマは3カ月に1度変更します。現在の展示テーマは①福祉用具を使った立ち上がりテクニック②最新歩行補助用具 となっています。

③ 内装のイメージチェンジ



落ち着いてくつろげる空間とするために観葉植物を配置。キッチンカウンターのデザインも変更しました。

④ むすび図書を始めました



むすび図書の本棚

皆さまのご自宅にある読み終わった本と、店舗にある本の中で自分の読みたいものを交換できる「むすび図書」の取り組みを始めました。ジャンルを問わない様々な本を無料で読むことができます。

皆さまのおすすめの本がございましたら、ぜひ「むすび図書」のご利用をお願いします！

参考 URL くらそっと <https://kurasott.com/>

8月4日より、インターネットショップもオープンしました。



あなたのくらしとふくしを結び、福祉用具のネットショップ

検索



株式会社エヌ・エフ・ユーについて

日本福祉大学が100%出資する『地域のふくしに貢献する「生活創造企業」』です。2019年11月に創立25周年を迎え、経営理念及び行動規範を刷新し、新たに中期計画を策定しました。

Topics

2019年度 国家試験の結果

（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師）

第32回社会福祉士国家試験 結果
全国の合格者数は11,612人、合格率は29.3%

参考 厚生労働省
第32回社会福祉士国家試験合格発表【報道発表資料】
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196349.html>

▶ 日本福祉大学

日本福祉大学通信教育部（新卒者）
合格者数 **518人** 12年連続・全国大学第1位

日本福祉大学通学課程（新卒者）
合格者数 **130人** 通学課程全国大学第1位

通信教育部の合格者数は518人で、12年連続して全国の大学（通信課程・通学課程）で第1位となっています。また、通学課程の合格者は130人で、これまで行われた32回の国家試験のうち、31回で全国第1位の合格者を輩出しています。

第32回社会福祉士国家試験 結果

区 分	新卒者			新卒者+既卒者		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
通学課程	250	130	52.0	847	204	24.1
通信教育部	900	518	57.6	1,910	717	37.5
日本福祉大学計	1,150	648	56.3	2,757	921	33.4
全国大学等計	8,200	4,596	56.0	21,756	6,327	29.1

▶ 日本福祉大学中央福祉専門学校

第32回社会福祉士国家試験 結果

課 程	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
社会福祉士科（夜間）	45	42	93.3
社会福祉士科（通信）	99	65	65.7
合 計	144	107	74.3

第22回精神保健福祉士国家試験 結果
全国の合格者数は4,119人、合格率は62.1%

参考 厚生労働省
第22回精神保健福祉士国家試験合格発表【報道発表資料】
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000197199.html>

▶ 日本福祉大学

日本福祉大学通信教育部（新卒者）
合格者数 **91人** 9年連続・全国大学第1位
合格率 **73.4%** 通信課程全国大学第1位

日本福祉大学通学課程（新卒者）
合格者数 **12人**
合格率 **85.7%**

通信教育部の合格者数は91人で、全国の大学（通信課程・通学課程）で第1位の結果となりました。また通学課程の合格者数は12人で、合格率は85.7%と、全国平均の62.1%を大幅に上回る結果となりました。

第22回精神保健福祉士国家試験 結果

区 分	新卒者			新卒者+既卒者		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
通学課程	14	12	85.7	24	15	62.5
通信教育部	124	91	73.4	174	107	61.5
日本福祉大学計	138	103	74.6	198	122	61.6
全国大学等計	1,614	1,195	74.0	2,541	1,372	54.0

第32回介護福祉士国家試験 結果 全国の合格者数は58,745人、合格率は69.9%

▶日本福祉大学

第32回介護福祉士国家試験 結果

学部・学科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
健康科学部リハビリテーション学科	40	39	97.5

▶日本福祉大学中央福祉専門学校

第32回介護福祉士国家試験 結果

課程	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
介護福祉士科	23	23	100

第22回言語聴覚士国家試験 結果 全国の合格者数は1,626人、合格率は65.4%

▶日本福祉大学中央福祉専門学校

第22回言語聴覚士国家試験 結果

課程	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
言語聴覚士科	12	12	100

第55回理学療法士国家試験 結果 全国の合格者数は10,608人、合格率は86.4%

▶日本福祉大学

第55回理学療法士国家試験 結果

学部・学科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
健康科学部リハビリテーション学科	39	38	97.4

第55回作業療法士国家試験 結果 全国の合格者数は5,548人、合格率は87.3%

▶日本福祉大学

第55回作業療法士国家試験 結果

学部・学科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
健康科学部リハビリテーション学科	43	43	100

第109回看護師国家試験 結果 全国の合格者数は58,514人、合格率は89.2%

▶日本福祉大学

第109回看護師国家試験 結果

学部・学科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看護学部看護学科	94	92	97.9

第106回保健師国家試験 結果 全国の合格者数は7,537人、合格率は91.5%

▶日本福祉大学

第106回保健師国家試験 結果

学部・学科	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看護学部看護学科	16	16	100



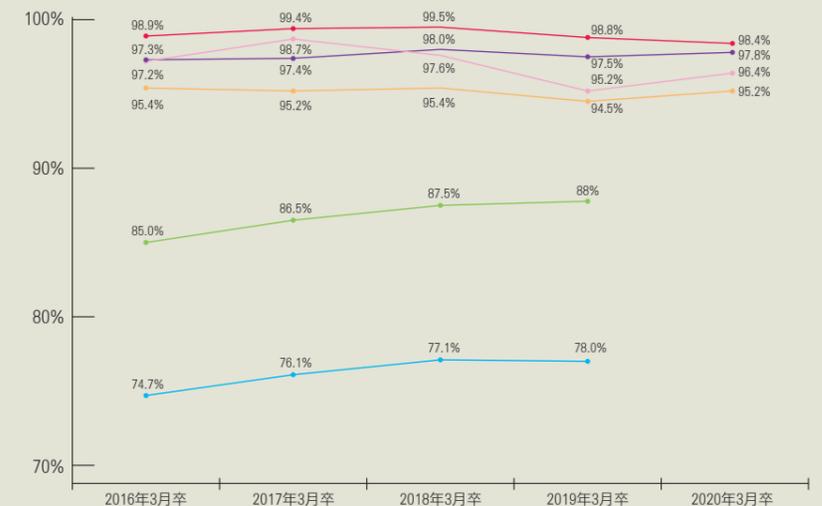
大学 2019年度就職状況

2020年3月卒の大卒求人倍率は1.83倍と、昨年度より0.05ポイント落ち込んだものの、学生優位の売り市場が継続しました。そうした中で本学の就職実績は、卒業生1,065人に対して就職者は1,014人で、卒業生の95.2%が就職しました。

就職率の推移 (2016年度~2020年度)

- 日本福祉大学就職率(就職希望者比)
- 全国文系私大卒就職率(就職希望者比) ※1
- 進学者を除く卒業生の就職率(日本福祉大学)
- 卒業生の就職率(日本福祉大学)
- 進学者を除く卒業生の就職率(全国平均) ※2
- 卒業生の就職率(全国平均) ※2

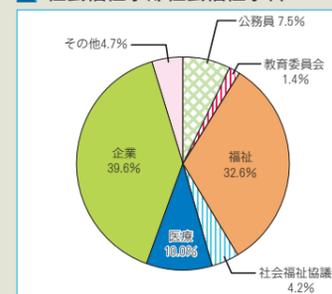
※1 文部科学省、厚生労働省調査のデータより作成
 ※2 文部科学省学校基本調査のデータより作成
 (最新データは8月下旬に公表予定)



2019年度卒業生 主な就職先 (2020年5月1日現在)

※就職先については、卒業時のものを掲載しています。

社会福祉学部社会福祉学科



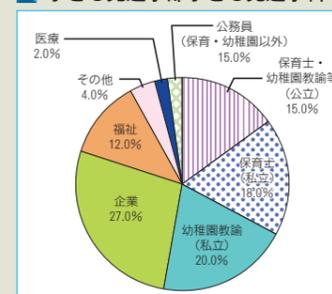
【公務員】国土交通省、愛知県、岐阜県、静岡県、豊橋市、豊明市、知多市、大垣市、伊勢市 ほか
 会、信州大学医学部附属病院、一般社団法人半田市医師会健康管理センター ほか

【教育委員会】愛知県教育委員会、豊橋市教育委員会 ほか

【企業】知多信用金庫、蒲郡信用金庫、瀬戸信用金庫、豊田信用金庫、西尾信用金庫、日本郵便株式会社、トヨタファイナンス株式会社、名古屋鉄道株式会社、ミツカングループ、大和ハウス工業株式会社、フランスベッド株式会社、サカイ創建グループ、株式会社三井不動産ホテルマネジメント、日本生命保険相互会社 ほか

【医療】公益社団法人日本海員救済会名古屋掖済会病院、愛知県厚生農業協同組合連合会、学校法人藤田学園藤田医科大学病院、南医療生活協同組合、社会福祉法人恩賜財団済生会静岡県済生会、一宮市立市民病院、小牧市民病院、江南厚生病院、伊那中央行政組合、伊那中央病院、岐阜県厚生農業協同組合連合

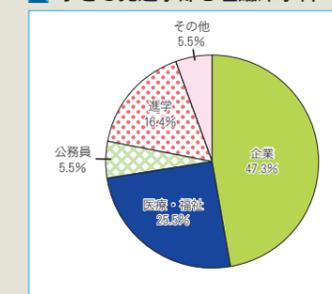
子ども発達学部子ども発達学科 保育専修



【保育士・幼稚園教諭】名古屋市、稲沢市、知多市、常滑市、西尾市、南知多町、大垣市、四日市市、浜松市、塩尻市、学校法人知立学園、学校法人安城学園、社会福祉法人豊川市保育協会、社会福祉法人相和福祉会 ほか

【その他】社会福祉法人豊橋市社会福祉協議会、社会福祉法人愛光園、医療法人社団桐和会、地方独立行政法人三重県立総合医療センター、株式会社小学館英社プロダクション、株式会社コロコロ発達療育センター、幼児活動研究会株式会社 ほか

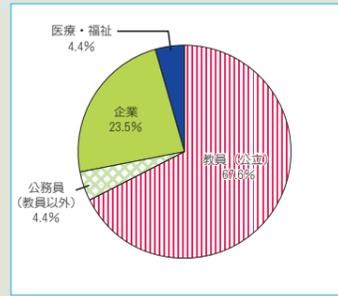
子ども発達学部心理臨床学科 心理臨床専修



南知多町、郡上市、ジー・イチ・ホスピタリティフードサービス中部株式会社、株式会社クスリのアオキ、株式会社コベル、株式会社セントバーナード、名鉄観光サービス株式会社、東海紙器株式会社、泰東工業株式会社、生活協同組合コープなごの、富吉硝子株式会社、株式会社キタムラ、サカイ創建グループ、株式会社エイジェック、エイム株式会社、株式会社アロー流通サービス、トヨタカラー東海株式会社、株式会社 FIVE.Holdings、アーキテックス株式会社 ほか

【進学先】日本福祉大学大学院、愛知教育大学大学院、名古屋大学大学院

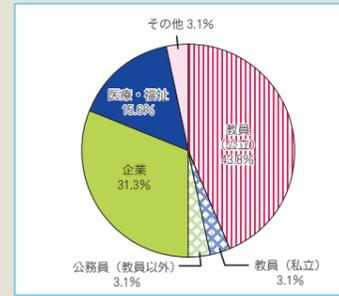
子ども発達学部子ども発達学科 学校教育専修



【教員(教育委員会)】愛知県、名古屋市、岐阜県、三重県、静岡県、浜松市、長野県、北海道、富山県、石川県、横浜市、山梨県、鹿児島県、佐賀県、徳島県、沖縄県 ほか

【その他】法務省、半田市、富田村、社会福祉法人天竜厚生会、ミツカングループ、ユニー株式会社、積水ハウス不動産中部株式会社 ほか

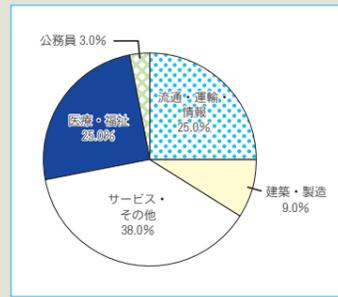
子ども発達学部心理臨床学科 障害児心理専修



【教員(教育委員会)】愛知県、名古屋市、岐阜県、静岡県、長野県、高知県、広島県、横浜市、学校法人特別支援学校聖母の学園 ほか

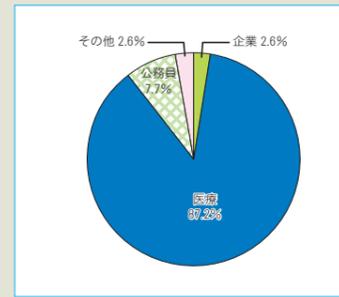
【その他】アイシン精機株式会社、知多信用金庫、独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ、社会福祉法人西春日井福祉会、社会福祉法人よつば会、株式会社トーカイ ほか

国際福祉開発学部国際福祉開発学科



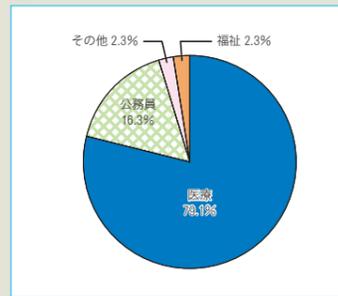
中部国際空港旅客サービス株式会社、フェデラルエクスプレスジャパン合同会社、中部スカイサポート株式会社、福山通運株式会社、名鉄観光サービス株式会社、アパホテル株式会社、ルートインジャパン株式会社、株式会社ECC、株式会社秀英予備校、NDSソリューション株式会社、株式会社ヨドバシカメラ、株式会社鳥貴族、日本赤十字社福岡県支部、岡崎市、社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 ほか

健康科学部リハビリテーション学科 理学療法専攻



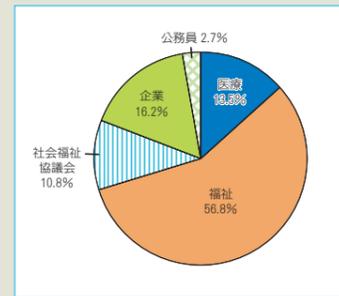
国立大学法人名古屋大学医学部附属病院、国立大学法人浜松医科大学医学部附属病院、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、学校法人愛知医科大学愛知医科大学病院、名古屋第二赤十字病院、南医療生活協同組合、半田市立半田病院、小牧市民病院、医療法人豊田会刈谷豊田総合病院、愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院、医療法人社団主体会、上伊那医療生活協同組合、株式会社愛知県在宅生活支援機構、医療法人メディライフ ほか

健康科学部リハビリテーション学科 作業療法専攻



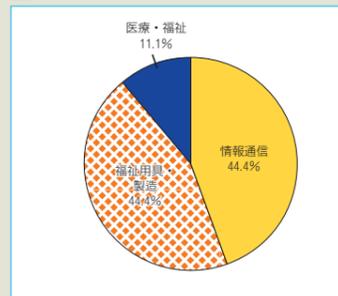
独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ、地方独立行政法人長野県立病院機構、公益財団法人豊田地域医療センター、医療法人豊田会刈谷豊田総合病院、愛知県厚生農業協同組合連合会海病院、岐阜県厚生農業協同組合連合会、学校法人国際医療福祉大学国際医療福祉大学市川病院、学校法人藤田学園藤田医科大学病院、学校法人愛知医科大学愛知医科大学病院、社会福祉法人恩賜財団済生会愛知県済生会リハビリテーション病院、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院、小牧市民病院、あま市民病院、西尾市民病院、市立御前崎総合病院、飯田市立病院、市立教養病院、社会医療法人蘇西厚生会、医療法人メディライフ ほか

健康科学部リハビリテーション学科 介護学専攻



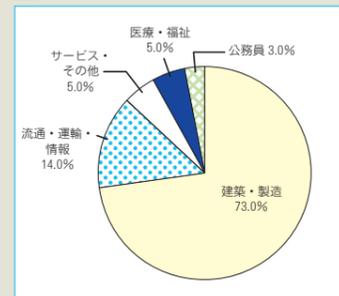
社会福祉法人刈谷市社会福祉協議会、社会福祉法人せんなん村、社会福祉法人知立福祉会ほほえみの里、社会福祉法人相和福祉会、社会福祉法人天竜厚生会、社会福祉法人西春日井福祉会、みなと医療生活協同組合介護老人保健施設「あつたの森」、医療法人豊田会刈谷豊田東病院、医療法人慈照会、医療法人清水会、豊橋市、パナソニックエイジフリー株式会社、株式会社ベネッセスタイルケア ほか

健康科学部福祉工学科 健康情報専修



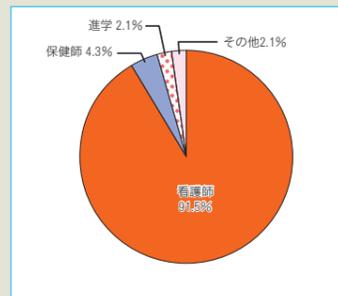
Sky株式会社、株式会社アビスト、株式会社テクノプロテクノロ・IT社、パーソナルR&D株式会社、株式会社ユニオンソフトウェアマネージメント、株式会社ソフトパリー、フランスヘッド株式会社、パナソニックエイジフリー株式会社、株式会社トーカイ、近鉄スマイルライフ株式会社、アビリティーズ・ケアネット株式会社、社会福祉法人サン・ビジョン、社会福祉法人親愛の里 ほか

健康科学部福祉工学科 バリアフリーデザイン専修



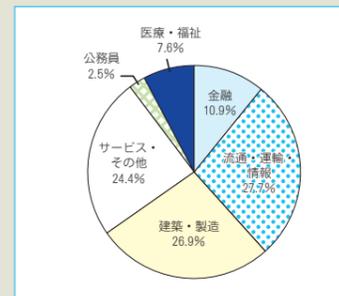
株式会社安藤・間、株式会社一条工務店、株式会社鴻池組、株式会社東京インテリア家具、三和シヤッター工業株式会社、住友不動産販売株式会社、第一工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、パナソニックリフォーム株式会社、ユニオンテック株式会社、岩間造園株式会社、フジ造園土木株式会社、名鉄環境造園株式会社、材惣木材株式会社、名古屋樹脂工業株式会社、大垣市、知多信用金庫、社会福祉法人愛光園、社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会 ほか

看護学部看護学科



【保健師】南知多町、武豊町、浜松市
【看護師】大宮病院、愛知医科大学病院、大宮大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院、名古屋大学医学部附属病院、藤田医科大学病院、豊田医科大学附属センター、豊田医科大学ばんだな病院(国立病院)愛知県がんセンター、あいち小児保健医療総合センター、一宮市立市民病院、大垣市立市民病院、岡崎市民病院、岐阜県総合医療センター、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院、国立国際医療研究センター、富山県立中央病院、豊橋市民病院、桜井市立聖隷済生市民病院、三重県立志摩病院、国立病院機構三重中央医療センター(赤十字病院)伊勢赤十字病院、高山赤十字病院、名古屋第一赤十字病院(厚生連病院)安城更生病院、海軍病院、江南厚生病院、豊田厚生病院(医療法人)その他、相澤病院、新田病院、一宮西病院、刈谷豊田総合病院、健和会病院、聖隷三方原病院、普光会リハビリテーション病院、総合大徳会病院、大同病院、中部らうさい病院、虎の門病院、名古屋経済会病院、名古屋セントラル病院、東戸塚記念病院、福井済生会病院、総合病院南生協病院、名南病院 ほか

経済学部経済学科



株式会社百五銀行、株式会社中京銀行、西尾信用金庫、豊田信用金庫、東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社、ANA沖縄空港株式会社、株式会社NTTドコモ、セコム株式会社、岩間造園株式会社、フジ造園土木株式会社、名鉄環境造園株式会社、材惣木材株式会社、名古屋樹脂工業株式会社、大垣市、知多信用金庫、社会福祉法人愛光園、社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会 ほか

Topics 中央福祉専門学校 2019年度就職状況

単位:人、()内は%

就職先	介護福祉士科		社会福祉士科(夜間課程)		言語聴覚士科	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
①居宅サービス事業所等	2 (5.4)	4 (17.4)	5 (9.4)	2 (4.3)	-	-
②介護保険施設	18 (48.6)	11 (47.9)	6 (11.3)	8 (17.4)	-	-
③障害福祉サービス事業所	1 (2.7)	1 (4.3)	2 (3.8)	3 (6.5)	-	-
④障害者支援施設	5 (13.5)	-	4 (7.5)	4 (8.7)	1 (5.9)	2 (16.7)
⑤保護施設	-	-	-	-	-	-
⑥児童福祉施設	-	-	8 (15.1)	8 (17.4)	-	-
⑦社会福祉協議会・共同募金会	-	1 (4.3)	8 (15.1)	4 (8.7)	-	-
⑧その他	1 (2.7)	-	3 (5.7)	1 (2.2)	-	-
公務員	-	-	-	-	-	-
①国	-	-	-	-	-	-
②都道府県	-	-	-	1 (2.2)	-	-
③市(区)町村	-	-	2 (3.8)	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
①医療機関	2 (5.4)	2 (8.7)	3 (5.7)	9 (18.6)	9 (52.9)	10 (83.3)
②福祉関係企業	-	-	-	-	-	-
③他産業(一般企業等)	1 (2.7)	1 (4.3)	4 (7.5)	2 (4.3)	-	-
④進学	6 (16.2)	3 (13.1)	2 (3.8)	-	-	-
⑤未就職	1 (2.7)	-	6 (11.3)	4 (8.7)	7 (41.2)	-
合計	37	23	53	46	17	12

Topics 付属高等学校 2019年度進路実績

今春の卒業生の64%が4年制大学に進学しました。日本福祉大学に73名が進学したほか、看護・医療系の学校に20名を超える生徒が進学しました。

主な合格先(大学・短大)

国立大学 国立清水海上技術短期大学校
愛知県内私立大学・短期大学 愛知大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、一宮研伸大学、岡崎女子大学、金城学院大学、修文大学、椋山女学園大学、大同大学、中京大学、東海学園大学、同朋大学、豊橋創造大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名城大学、愛知学泉短期大学、愛知江南短期大学、愛知文教女子短期大学、名古屋女子大学短期大学部、名古屋文理大学短期大学部、至学館大学短期大学部
愛知県外私立大学 関西外国語大学、岐阜医療科学大学、岐阜聖徳学園大学、京都芸術大学、東海学院大学、立命館大学

主な合格先(専門学校)

日本福祉大学中央福祉専門学校、HAL名古屋、あいちビジネス専門学校 ITビジネス科オフィスビジネスコース、愛知美容専門学校、あいち福祉医療専門学校、中日美容専門学校、ナゴノ福祉歯科医療専門学校、名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校、名古屋観光専門学校、名古屋こども専門学校、名古屋スイーツ&カフェ専門学校、名古屋ビューティーアート専門学校、名古屋文化学園保育専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、名古屋リゾート&スポーツ専門学校、日本聴能言語福祉学院、名古屋スクール・オブ・ビジネス、名古屋医療秘書福祉専門学校、公立西知多看護専門学校、西尾市立看護専門学校、名古屋医専、半田常滑看護専門学校、名古屋市立中央看護専門学校、安城市医師会安城碧海看護専門学校、中部防災看護専門学校

主な就職先

AGC株式会社、あいち知多農業協同組合、志多ら、名古屋オーシャンズサテライト、日鉄精圧品株式会社、日本製鉄株式会社名古屋製鉄所、名鉄海上観光船株式会社

学生たちの活躍

2019年度 課外活動奨励賞

対象期間：2018年11月～2019年10月

日本福祉大学では毎年、スポーツや学術文化・地域貢献などの課外活動において、素晴らしい成績をあげた個人やサークル、団体を表彰しています。これは、日本福祉大学後援会の学生活動支援助成に基づく支援事業であり、2019年12月7日に「今年度活躍した学生を励ます集い」のなかで開催されました。



学長表彰（個人）

1 スポーツ活動

- **高橋 峻也**（陸上競技部）／経済学部3年
【WPA公認 第30回日本パラ陸上競技選手権大会】The 30th Japan Para Athletics championships In Osaka／男子F46 やり投げ：2位
【愛知パラ陸上競技大会】男子F46 やり投げ：1位
【WPA公認第24回関東パラ陸上競技選手権大会】男子F46 やり投げ：1位
【天皇陛下御即位記念2019年ジャパンパラ陸上競技大会】男子F46 やり投げ：2位
- **井内 月野**（陸上競技部）／スポーツ科学部3年
【第72回西日本学生陸上競技対校選手権大会】400m：4位
【第85回東海学生陸上競技選手権大会】400m：6位
【2019年東海学生陸上競技夏季大会】400m：3位
【第46回東海学生陸上競技選手権大会】400m：3位
- **安田 帆孝**（水泳部）／スポーツ科学部2年
【日本パラ競泳】育成A指定選手
【Singapore 2019 World Para Swimming World Series】日本代表
【日本パラ水泳選手権】100m自由形：1位、400m自由形：1位
【World Para Swimming公認2019ジャパンパラ水泳競技大会】400m自由形決勝：1位、200m個人メドレー決勝：1位、100m自由形決勝：2位、50m自由形決勝：2位
- **後藤 陸斗**（水泳部）／経済学部4年
【日本パラ競泳】育成B指定選手
【日本パラ水泳選手権】50m自由形：3位
【World Para Swimming公認2019ジャパンパラ水泳競技大会】400m自由形：決勝1位、50m自由形：決勝5位、100m自由形：決勝3位

- 決勝5位、100m自由形：決勝3位
- **蜂矢 樹**（水泳部）／経済学部4年
【2019日本学生トライアスロン選手権観音寺大会】総合順位130位
【アイアンマン70.3セントレア知多半島ジャパン】18-24歳の部：2位
【70.3 World Championship in Nice】総合順位92位
- **田中美沙樹**（水泳部）／経済学部3年
【2019日本学生トライアスロン選手権観音寺大会】総合順位15位
【第9回日本U23トライアスロン選手権（2019／仙台）】総合順位5位
【第25回日本トライアスロン選手権（2019／東京・台場）】途中棄権
- **渡辺 輝**（水泳部）／スポーツ科学部3年
【2019日本学生トライアスロン選手権観音寺大会】総合順位78位
【日本U23トライアスロン選手権】総合順位21位
【アイアンマン70.3セントレア知多半島ジャパン】18-24歳の部：3位
- **岩田 里玖**（フライングディスク部）／スポーツ科学部3年
【WFDF2019アジア・オセアニアアルティメット&ガッツ選手権大会】ガッツ・オープン部門：優勝（2019/7/23 - 2019/7/27）
- **西野 凌**（アーチェリー部）／スポーツ科学部1年
【第61回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会】男子個人：88位
【第58回全日本学生アーチェリー個人選手権大会】男子個人：69位
【第30回全日本学生アーチェリー東日本大会】男子個人：12位
- **佐藤 百音**（アーチェリー部）／スポーツ科学部1年
【第61回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会】

- ／女子個人：58位
【第58回全日本学生アーチェリー個人選手権大会】女子個人：44位
【第30回全日本学生アーチェリー東日本大会】女子個人：20位
- **熊谷 悟**／健康科学部4年
【第18回全国車椅子バスケットボール大学選手権】準優勝
【市制55周年記念第15回北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会】第三位

学長表彰（団体）

1 スポーツ活動

- **男子ソフトボール部**
【第19回愛知県大学ソフトボール選手権】優勝、最優秀選手賞：松山 和貴
【令和元年度春季東海地区大学男子I部ソフトボールリーグ戦】第4位
個人表彰 ベスト10：猪熊 純平（外野手）・藤原 智徳（投手）／最優秀防御率賞：藤原 智徳（投手）
【第51回西日本大学ソフトボール選手権大会】ベスト16
【文部科学大臣杯第54回全日本大学男子ソフトボール選手権大会】ベスト8
【第16回大学男子・女子オープン・ソフトボール大会】優勝
【各試合会場の清掃活動】（4月～11月）
- **アーチェリー部**
【2019年度全日本学生アーチェリー王座決定戦】男子団体：15位、女子団体：12位
【2019年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦（本戦）】男子団体：準優勝、女子団体：準優勝

学生部長表彰（個人）

1 スポーツ活動

- **永末 大輝**（フライングディスク部）／社会福祉学部3年
【2019U-23アルティメット地区選抜対抗戦】ミックス部門：地区選抜選手選考会通過
※備考：ミックス部門優勝
- **芦田 諒太**（ゴルフ部）／スポーツ科学部3年
【2019年度全日本アマチュアゴルフフェーズ選手権】117位T（165名中）
【2019年度中部日本アマチュアゴルフフェーズ選手権地区決勝】5位（170名中）
【2019年度中部学生ゴルフ連盟10月定例会】1位（61名中）
- **丸山 雄太**（陸上競技部）／スポーツ科学部1年
【2019東海混成選手権大会愛知大会】男子十種競技決勝：3位
- **末元 昂成**（陸上競技部）／スポーツ科学部1年
【第72回長野陸上競技選手権大会】男子ハンマー投げ決勝：8位
- **加藤 皓大**（陸上競技部）／スポーツ科学部2年
【2019年東海学生陸上競技夏季大会】400m決勝：6位
- **小林 楓**（I部バドミントン部）／スポーツ科学部2年

- 【第63回愛知学生新人バドミントン選手権大会】女子ダブルス：準優勝
- **武本 未菜**（I部バドミントン部）／スポーツ科学部2年
【第63回愛知学生新人バドミントン選手権大会】女子シングルス：優勝
【第63回愛知学生新人バドミントン選手権大会】女子ダブルス：準優勝
- **東 志音**（I部バドミントン部）／スポーツ科学部1年
【第41回東海学生新人バドミントン選手権大会】男子ダブルス：準優勝
- **荒木 那智**（I部バドミントン部）／経済学部1年
【第41回東海学生新人バドミントン選手権大会】男子ダブルス：準優勝
- **田中 大志**（I部バドミントン部）／子ども発達学部4年
【第41回東海学生新人バドミントン選手権大会】男子ダブルス：3位
- **高嶋 健人**（I部バドミントン部）／社会福祉学部1年
【第41回東海学生新人バドミントン選手権大会】男子ダブルス：3位

2 学術文化活動

- **松浦 百花**／社会福祉学部4年
【公益財団法人日本吟剣詩舞振興会公認岐阜県吟剣詩舞道総連盟主催令和元年度全国剣詩舞コンクール岐阜県大会】青年の部詩舞優勝

3 地域貢献活動

- **林 源太**／健康科学部4年
【半田市亀崎地区にて地域活性化とこども達の地域魅力再発見を目的としたワークショップ、「亀崎建築ものづくり塾」を継続的に実施】
【亀崎地区の空き家を利用した学生シェアハウスの維持】

学生部長表彰（団体）

1 スポーツ活動

- **女子ソフトボール部**
【中京テレビ杯令和元年度秋季第74回東海地区大学女子ソフトボールリーグ】1部リーグ：5位
【中京テレビ杯令和元年度春季第73回東海地区大学女子ソフトボールリーグ戦】1部リーグ：6位
【中京テレビ杯令和元年度秋季第74回東海地区大学女子ソフトボールリーグ】個人表彰（ポジション別ベスト選手）：藤井 杏朱（捕手）
【中京テレビ杯令和元年度秋季第74回東海地区大学女子ソフトボールリーグ】ベストマーケティング賞：佐伯 柚葉
- **I部バドミントン部**
【第63回愛知学生新人バドミントン選手権大会】女子：準優勝
【第41回東海学生新人バドミントン選手権大会】男子：3位
【美浜町民バドミントン大会に地域貢献のため参加】
- **I部剣道部**
【第66回東海学生剣道優勝大会2部リーグ】優勝

■ 女子バスケットボール部

【第57回東海学生バスケットボール大会】第7位
【第90回東海学生バスケットボールリーグ戦】2部リーグ：2位

■ 硬式野球部

【2019年度愛知大学野球連盟】選抜チーム：選出（石本光紀）
【第28回JABA岩手県野球連盟定期リーグ戦大会】敢闘賞（藤原直也）
【愛知大学野球連盟2019年度秋季リーグ戦】優秀投手賞（藤原直也）

■ 弓道部

【第62回東海学生弓道選手権大会】女子個人3位：岡本花
【第67回全日本学生弓道選手権大会】男子個人予選通過、全国大会出場：清家将太・大脇涼雅

■ 地域貢献活動

■ 災害ボランティアセンター

【2019年度に発生した台風15号及び19号について学内募金活動】寄付を行った
【台風19号の被災地支援活動を実施】
【継続的な支援として東日本大震災支援活動（学生11名参加）、熊本地震支援活動（学生11名参加）を実施】
【東海キャンパスでは地域防災マップの作成や非常食の食べ比べ企画など地域住民と協同した活動を実施】
【半田キャンパスにて次年度の災害ボランティアセンター立ち上げに向けた活動（東北でのフィールドワーク、学内講演会の企画など）を実施】

美浜町日本福祉大学家主組合 2019年度課外活動顕彰

対象期間：2018年11月～2019年10月



美浜町日本福祉大学家主組合では、学生の課外活動を顕彰する制度を設けており、当該年度に活躍した団体や個人に対して奨励金を支給しています。2019年度の表彰式は2019年12月7日に美浜キャンパスで開催され、4団体が表彰されました。

スポーツ ■ 男子バスケットボール部

【第90回東海バスケットボールリーグ戦(3部男子)】高橋亮威：個人別得点数4位、小石璃音：個人別3P数5位・個人別得点数5位、大橋智海：個人別得点数5位

地域貢献 ■ 日本福祉大学ディズニーサークル DTC

【平成30年度大学連携まちづくり推進事業】
【レゴ東海市発信交流プロジェクト】
【「わくわく☆クルマフェスタ」11月4日実施】

地域貢献 ■ にじぶく

【NLGR+2019 出展】
【名古屋レインボープライド2019 参加】おしゃべりブース企画設置

地域貢献 ■ 地域課題解決サークル CYCLE

【美浜町河和地区の空き家を用いたサロン活動を実施し、定期的にイベントを開催】「内ラリー会」、「バザー」(2018年11月19日)、「みんなで食べよう会」(2019年3月21日)、「夏季!! 河和ハウス勉強会 with にじぶく生」等※以下メディア出演、掲載情報：知多半島ケーブルネットワーク/ニュース CCNC「日本福祉大学生による空き家活用企画」(2018年11月22日放送)、朝日新聞「おいでよ! 美浜のオール世代」(2019年3月18日掲載)、中日新聞「桜餅みんなで食べよう」(2019年3月19日掲載)、知多半島ケーブルネットワーク/ニュース CCNC「美浜町河和みんなで食べよう会」(2019年3月25日放送)

ふくし AWARD2019

1997年にホームページコンテストとしてスタートし、デジタルコンテンツコンテストを経て、2015年度からふくし AWARDとしてリニューアル（主催：全学教育センター）。「地域に根ざし、世界を目指す「ふくし」の学びを伝えよう！」をコンセプトに、ICTを活用した日本語部門と英語部門の2部門によるプレゼンテーションコンテストとして行われました。2019年度のコンテストは2020年1月28日に東海キャンパスで開催され、下記の作品が入賞しました。

部門	賞	タイトル	代表者氏名	学部学年
英語部門	大賞	Earthquake	小宮山実来	国際福祉開発学部1年
	準大賞	Food waste and Food Bank	Achintha Wijesinghe	国際福祉開発学部1年
	奨励賞	REHABILITATION FACILITIES	比嘉 乃彩	国際福祉開発学部1年
	入選	Earthquake	川瀬 星来	国際福祉開発学部1年
日本語部門	大賞 学長特別賞	私たちが考える障害とは	水野 由樹	社会福祉学部1年
	準大賞	あおり運転について	石原 綾乃	子ども発達学部1年
	奨励賞	「大規模施設」から「ファミリーホーム」へ移り行く、子どもを取り巻く支援の実態～去年の学びを活かして考える～	加藤 正幸	社会福祉学部2年
	入選	児童養護施設における子どもたちの日常生活の考察	大沼 凜和	社会福祉学部1年

付属高等学校部活動報告 2019年度 (県大会以上の成績のみ掲載)

サッカー部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2019 愛知県2部リーグ/2位 ■ 高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2019 愛知県4部Bリーグ/4位 ■ 第73回愛知県高等学校総合体育大会サッカー競技/3回戦敗退 ■ 第98回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会/2回戦敗退
硬式野球部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第69回愛知県高等学校優勝野球大会/1回戦敗退 ■ 第101回全国高等学校野球選手権大会愛知県大会/4回戦敗退 ■ 第72回愛知県高等学校野球選手権大会/1回戦敗退
陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第73回愛知県高等学校総合体育大会陸上競技大会出場/男子走幅跳 3年 中川純生、男子やり投げ 3年 中川純生、男子砲丸投 2年 宮崎一馬、男子円盤投 2年 宮崎一馬、男子やり投げ 2年 宮崎一馬、女子走高跳 2年 長谷川楓 ■ 令和元年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会出場/男子砲丸投 2年 宮崎一馬、男子円盤投 4位 2年 宮崎一馬、男子5000m 1年 北村栄敏、女子走高跳 2年 長谷川楓、女子走幅跳 1年 中村佑月、1年 榎原加菜、女子100m 榎原まい、女子100mH 1年 天堂日南子 ■ 第22回東海高等学校新人陸上競技選手権大会/男子円盤投第4位 2年 宮崎一馬
剣道部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和元年度愛知県高等学校新人体育大会出場/柴田陽菜
水泳部	<ul style="list-style-type: none"> ■ IDM berlin 2019 World Para Swimming World Series ※(ドイツでの国際大会)/男子200m個人メドレー第2位 岡島貴太、男子200m自由形第3位 岡島貴太、男子400m自由形第3位 岡島貴太、男子50mバタフライ第3位 岡島貴太 ■ 2019年度愛知県高等学校新人体育大会/100m平泳ぎ8位 長尾優太 ■ 愛知県高等学校選手権水泳競技大会、愛知県高等学校新人体育大会水泳競技/男女ともに県大会出場 ■ ジャパンパラ水泳競技大会/1年 岡島貴太 ■ 第36回日本パラ水泳選手権大会/1年 岡島貴太、2年 太田祐基
和太鼓部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第43回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門(佐賀大会)/第3位優良賞受賞 ■ 令和元年度愛知県高等学校総合文化祭郷土芸能部門愛知県大会/優秀賞受賞
吹奏楽部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2019年度第62回中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会/金賞 ■ 2019年度愛知県吹奏楽コンクール愛知県大会/銀賞 ■ 第62回中部日本吹奏楽コンクール本大会(浜松にて開催)/銀賞 ■ 2019年度愛知県アンサンブルコンテスト愛知県大会/木管八重奏銀賞(出場全員1年生) 高橋凛々花・久保田萌・岡本紗歩・相武舞・山代帆那・加古美紗希・藤田陽菜乃・鈴木怜那、金管八重奏銀賞 2年 竹内菜々美・難波春妃 1年 入口美杏 3年 水本夢菜 1年 鈴木幹二・竹澤歩里・赤井橋未優・佐々木七星 ■ 第24回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト愛知県大会/1年 高橋凛々花：バリトンサクソ独奏金賞、1年 佐々木七星：ユーフォニアム独奏金賞、1年 赤井橋未優：ホルン独奏金賞、1年 相武舞：クラリネット独奏金賞、1年 入口美杏：トランペット独奏金賞、1年 加古美紗希：フルート独奏金賞、1年 久保田萌：サクソフォン独奏銀賞、1年 藤田陽菜乃：オーボエ独奏銀賞、1年 宮本音葉：ホルン独奏銀賞 ■ 第24回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東海大会/1年 高橋凛々花：バリトンサクソ独奏金賞6位入賞、1年 佐々木七星：ユーフォニアム独奏金賞19位入賞、1年 赤井橋未優：ホルン独奏銀賞、1年 相武舞：クラリネット独奏銀賞
国際協力部	愛知県高等学校文化連盟ボランティア専門部 令和1年度大会

教職員人事異動のお知らせ

敬称略、順不同

■ 新任教職員 ■ 2020年4月1日付採用

日本福祉大学



川島 ゆり子
(かわしま ゆりこ)
社会福祉学部
教授
専門分野 社会福祉学、地域福祉



田中 優
(たなか まさる)
社会福祉学部
教授
専門分野 地方自治論、自治体公共政策



柴田 益江
(しばた ますえ)
健康科学部
招聘教授
専門分野 老年看護、家族社会学



梅谷 聡子
(うめたに さとこ)
福祉経営学部 (通信教育)
助教
専門分野 社会福祉学



太田 健一
(おおた けんいち)
福祉経営学部 (通信教育)
助教
専門分野 地域リハビリテーション



中村 将洋
(なかむら まさひろ)
福祉経営学部 (通信教育)
助教
専門分野 高齢者ケア、コミュニケーション技術、福祉人材育成
※2019年10月1日付採用



寺澤 真由
(てらさわ まゆ)
看護学部
助手
専門分野 急性期、周手術期



中野 諭
(なかの さとし)
経済学部
教授
専門分野 応用計量経済学



天野 瑞枝
(あまの みずえ)
大学院看護学研究科
招聘教授
専門分野 高齢者看護学



渋谷 篤男
(しぶや あつお)
福祉経営学部 (通信教育)
招聘教授
専門分野 地域福祉



添田 正揮
(そえた まさき)
社会福祉学部
准教授
専門分野 社会福祉学、国際福祉、ソーシャルワーク理論・方法論



吉澤 桃子
(よしざわ ももこ)
看護学部
助手
専門分野 母性看護学

日本福祉大学
付属高等学校



島田 祥宇
(しまだ しょうう)
専任教員
教 科 理科



平下 佳明
(ひらした よしあき)
校長特別補佐
配属先 付属高等学校



藤井 渉
(ふじい わたる)
社会福祉学部
准教授
専門分野 障害者福祉論



工藤 英美
(くどう ひでみ)
教育・心理学部
准教授
専門分野 発達心理学、教育心理学、保育学



住田 健
(すみだ けん)
スポーツ科学部
准教授
専門分野 スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動



小笠原ゆかり
(おがさわら ゆかり)
看護学部
准教授
専門分野 看護教育、看護技術、看護史

職員



板野 真里
(いたの まり)
専任職員
配属先 中央福祉専門学校事務室



榎本 祐太郎
(えのもと ゆうたろう)
専任職員
配属先 研究課



小川 公美
(おがわ くみ)
専任職員
配属先 社会福祉総合研修センター事務室



安藤 佳珠子
(あんどう かずこ)
社会福祉学部
講師
専門分野 精神科ソーシャルワーク



西岡 裕子
(にしおか ひろこ)
看護学部
講師
専門分野 臨床看護学



上山崎 悦代
(かみやまさき えつよ)
福祉経営学部 (通信教育)
講師
専門分野 社会福祉学



石田 知美
(いしだ ともみ)
全学教育センター
講師
専門分野 第二言語習得論、英語教育



小島 佑太
(こじま ゆうた)
専任職員
配属先 大学院事務室



佐川 僚
(さかわ りょうじ)
専任職員
配属先 美浜事務室
※2019年10月1日付採用



清家 悟
(せいけ さとる)
専任職員
配属先 通信教育部事務室
※2019年10月1日付採用



西野 加菜美
(にしの かなみ)
専任職員
配属先 半田事務室



田中 将裕
(たなか まさひろ)
健康科学部
助教
専門分野 リハビリテーション科学



田中 真由美
(たなか まゆみ)
国際福祉開発学部
助教
専門分野 日本語教育学



嶋田 貴之
(しまだ たかゆき)
看護学部
助教
専門分野 地域看護学
※2020年6月1日付採用



浅石 裕司
(あさいし ゆうじ)
福祉経営学部 (通信教育)
助教
専門分野 社会福祉学、福祉政治、福祉政策、地方自治、NPO



平川 瑛一
(ひらかわ えいいち)
専任職員
配属先 学務課



藪井 祐明佳
(やぶい ゆめか)
専任職員
配属先 美浜事務室



塚本 美穂子
(つかもと みほこ)
契約職員
配属先 東海事務室



花野 真子
(はなの まこ)
契約職員
配属先 学務部学生課

日本福祉大学
附属クリニック
さくら



竹内 健二
(たけうち けんじ)
院長
医師
※ 2020年6月1日付採用



村上 真知子
(むらかみ まちこ)
医療職員
言語聴覚士
※ 2020年6月1日付採用



伊藤 尚子
(いとう なおこ)
契約職員
言語聴覚士
※ 2020年8月1日付採用



板橋 ゆかり
(いたばし ゆかり)
契約職員
言語聴覚士
※ 2020年8月1日付採用



植田 紗代
(うえだ さよ)
契約職員
看護師
※ 2020年8月1日付採用

■ 任用変更・昇格

■ 教員昇格 () 内は昇格前

■ 2020年4月1日付

- 遠藤 秀紀 経済学部教授 (准教授)
- 松下 明生 教育・心理学部教授 (准教授)
- 三井 利仁 スポーツ科学部教授 (准教授)
- 中村 将洋 福祉経営学部助教 (実習教育講師)

■ 退職

■ 2019年9月30日付

土田和可子 健康科学部リハビリテーション学科助教

■ 2019年10月31日付

佐藤 綾野 看護学部看護学科 助教

■ 2020年3月31日付

- 西村 一彦 経済学部 教授
- 大林由美子 福祉経営学部 通信教育 助教
- 旭 八郎 健康科学部 実習教育講師
- 倉田 朱美 健康科学部 実習教育講師
- 塩崎 美穂 子ども発達学部 准教授
- 荒木美千子 看護学部 准教授
- 岡本ちさと 看護学部 助教
- 水越 秋峰 看護学部 助教

- 加藤 治実 看護学部 実習教育講師
- 山本 知里 看護学部 実習教育講師
- 千葉 洋平 スポーツ科学部 助教
- 朴 愈美 福祉社会開発研究所 准教授
- 小木曾早苗 福祉社会開発研究所 助教
- 酒井夕香子 中央福祉専門学校専任教員
- 伊藤 大祐 附属高等学校常勤講師
- 田村 裕哉 附属高等学校常勤講師

■ 事務職員

■ 2019年9月30日付

相武 知里 東海事務室兼国際課

■ 2020年1月31日付

鈴木 宏美 学生課特別契約職員

■ 2020年3月31日付

- 神谷 真人 社会福祉実習教育研究センター事務室
- 高木 公晴 大学院事務室
- 生川 友恒 美浜事務室
- 林 純 中央福祉専門学校事務室
- 漆畑 貴久 キャリア開発課特別契約職員
- 村松 愛子 東海事務室特別契約職員

諏訪兼位元学長の訃報



諏訪兼位 (すわ かねのり) 日本福祉大学元学長・名誉教授が2020年3月15日、多臓器不全のためご逝去されました (享年91歳)。先生のご功績とお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、諏訪先生が生前に朝日新聞「朝日俳壇・歌壇」に投稿および掲載された作品をご紹介します。

「わすれても大丈夫、僕が覚えておくよ」日福大生の認知症カルタ

諏訪 兼位

(2020年3月22日 朝日新聞朝刊「朝日俳壇・歌壇」掲載作品)

故人の略歴

- 生年月日 1928年5月15日
- 1951年3月 東京大学 理学部地質学科卒業
- 1951年4月 名古屋大学 理学部助手
- 1971年4月 名古屋大学 理学部助教授
- 1983年4月 名古屋大学 理学部教授
- 1988年4月 名古屋大学 理学部長
- 1992年4月 名古屋大学 名誉教授
- 1992年4月 日本福祉大学 赴任 (専門: 地球科学 特に地質学、岩石学)
- 1992年4月 日本福祉大学 経済学部教授
- 1995年4月 日本福祉大学 情報社会科学部長 (1999年3月まで) ※初代学部長
- 1999年4月 日本福祉大学 学長 (2003年3月まで) ※第4代学長
- 2003年4月 日本福祉大学 名誉教授

■ 訃報

長年にわたり本学園を支えてくださいました。ご生前のお姿を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表します。

- 2019年11月17日 小林 詢 先生 情報社会科学部 教授 2007年3月退職
- 2020年2月26日 鈴木 章 氏 事務職員 専任 2000年3月 (定年) 退職
定年退職後に特別契約職員 2007年3月退職
- 2020年6月8日 池田 幹 氏 事務職員 専任
- 2020年6月30日 池本美和子 先生 社会福祉学部 助教 2002年3月退職

新型コロナウイルス除染講習会を開催

8月7日、美浜キャンパスにて「新型コロナウイルス除染講習会」を開催しました。

この講習会は安心・安全に利用できる教育環境整備を目指し、本学関係者（日本福祉大学・附属高等学校・中央福祉専門学校の教職員および株式会社エヌ・エフ・ユーの職員）約30名が参加。



講義を行う神野敏幸さん

講習会では株式会社レリック神野敏幸さん（代表取締役）より、学校内での除菌作業の流れや方法を説明いただきました。神野さんは2020年2月横浜港に停泊したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での除染作業にあたったメンバーの1人で、自らの経験談についてもお話いただきました。

最後に机や椅子の除菌作業の指導を受けました。作業時の手袋の着脱方法や清拭による正しい除菌方法、靴底の除菌の留意点などを学びました。



学内の机や椅子を各自で除菌

